

「こどもと保育者における生活満足度(ウェルビーイング)に関する調査」報告書

公益社団法人 全国私立保育連盟 調査部

はじめに

2023年12月22日に『こども大綱』とともに閣議決定された『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)』では全てのこどもの生涯にわたる身体的・精神的・社会的な観点での包括的な幸福としてウェルビーイングの向上が謳われています。ウェルビーイング(well-being)は文字通り well と being を合わせた造語として直感的に良好な状態、満たされた状態とイメージすることができ、誰もが理想とする状態とも言えます。

そのような視点から我が国日本の状況を見てみると、3月20日の『国際幸福デー』に国連の持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(Sustainable Development Solutions Network=SDSN)と英オックスフォード大学ウェルビーイング・リサーチ・センター(Wellbeing Research Centre)、米ギャラップ(Gallup)が発表した「2024年世界幸福度報告(World Happiness Report 2024)」における日本の順位は51位でした。評価項目が『利他の心』を重んじるアジア文化圏の国にとっては不利という見解もありますが、経済的にも物質的にも比較的恵まれている日本の順位としては低いと言わざるをえません。これまで日本人がよい国、よい社会を作ろうとして長い間努力してきたことは何だったのでしょうか。時代と共に幸福の意味も変化している可能性はありますが、日本人が得たいと思っていた幸福はもしかしたら本当の幸福とは少しズレていたのかもしれない。

「2024年世界幸福度報告 (World Happiness Report 2024)」

1位:フィンランド
2位:デンマーク
3位:アイスランド
4位:スウェーデン
5位:イスラエル
6位:オランダ
7位:ノルウェー
8位:ルクセンブルク
9位:スイス
10位:オーストラリア

日本:51位

※東南アジア諸国
◇シンガポール:30位
◇フィリピン:53位
◇ベトナム:54位
◇タイ:58位
◇マレーシア:59位
◇インドネシア:80位
◇ラオス:94位
◇ミャンマー:118位
◇カンボジア:119位

今、こどものウェルビーイングの向上が子育てや保育の目指すべき方向とされるのを機に、私たち保育者はウェルビーイングの理解を深め、そして保育とウェルビーイングの関係を明らかにする必要があると考え全私保連調査部では今回の『こどもと保育者における生活満足度(ウェルビーイング)に関する調査』を行いました。調査結果においてウェルビーイングの言葉も意味も知っている回答は全体の22%であることが示すとおり、まだまだ保育に浸透していない事が分かりました。本報告書をお読み頂くことで少しでも皆さんにとってウェルビーイングが身近なものになれば幸いです。

〈調査の概要〉

調査内容:本調査報告書 33 頁に添付した「調査票」に基づくインターネット調査

調査対象:保育施設で働くすべての方

調査機関:令和6年2月1日～2月29日

回答数:2,135 回答

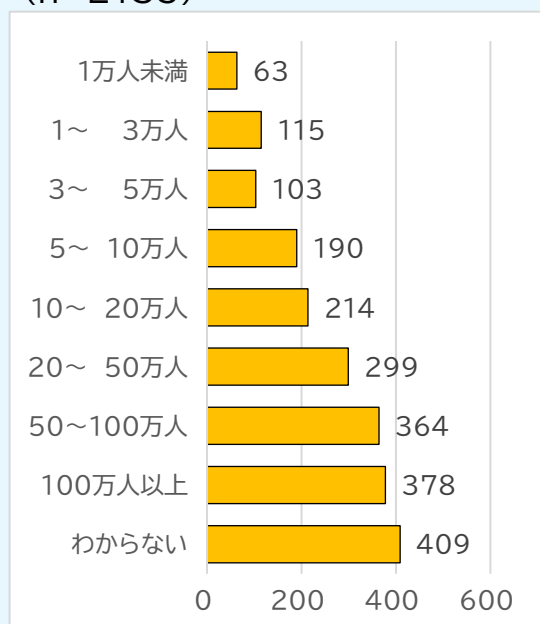
全国私立保育連盟 調査部
「こどもと保育者における生活満足度（ウェルビーイング）
に関する調査」 単純集計

調査期間：令和 6 年2月1日～2月29日

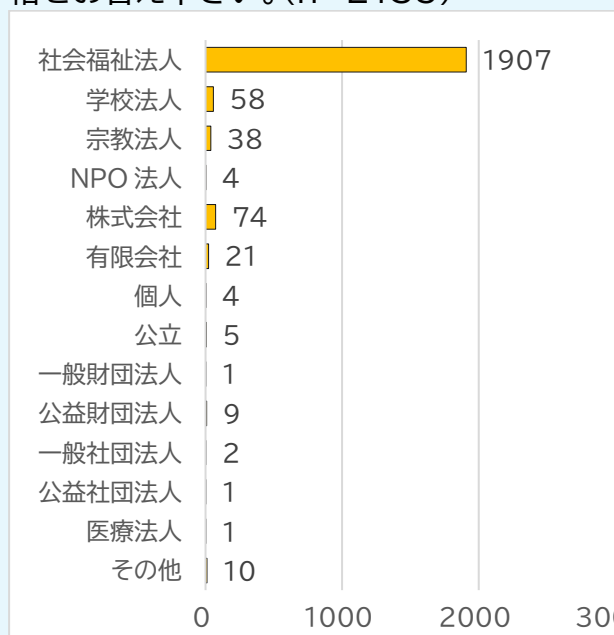
Q 1 ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答え下さい。(n=2135)

都道府県	回答数	都道府県	回答数	都道府県	回答数
北海道	27	石川県	11	岡山県	10
青森県	3	福井県	0	広島県	131
岩手県	5	山梨県	0	山口県	2
宮城県	2	長野県	2	徳島県	134
秋田県	54	岐阜県	123	香川県	1
山形県	22	静岡県	15	愛媛県	0
福島県	8	愛知県	18	高知県	2
茨城県	1	三重県	20	福岡県	578
栃木県	32	滋賀県	43	佐賀県	0
群馬県	5	京都府	134	長崎県	63
埼玉県	6	大阪府	144	熊本県	92
千葉県	84	兵庫県	248	大分県	4
東京都	28	奈良県	4	宮崎県	25
神奈川県	14	和歌山県	3	鹿児島県	8
新潟県	0	鳥取県	1	沖縄県	19
富山県	0	島根県	9		

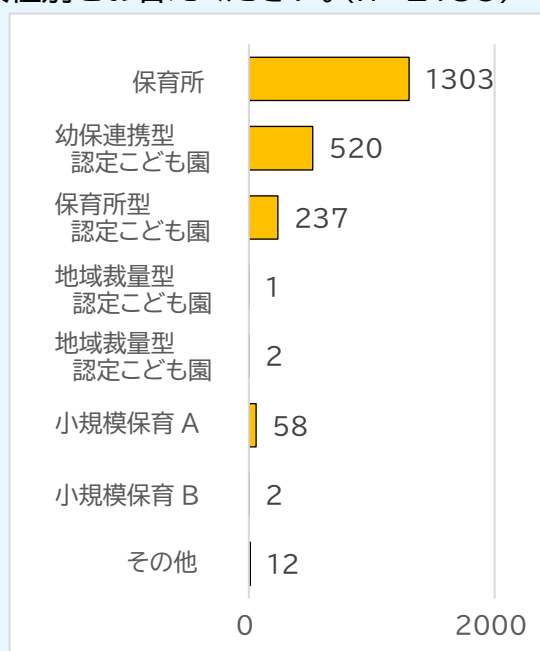
Q 2 ご回答頂いている方の施設がある市区町村の人口をお答え下さい。(n=2135)



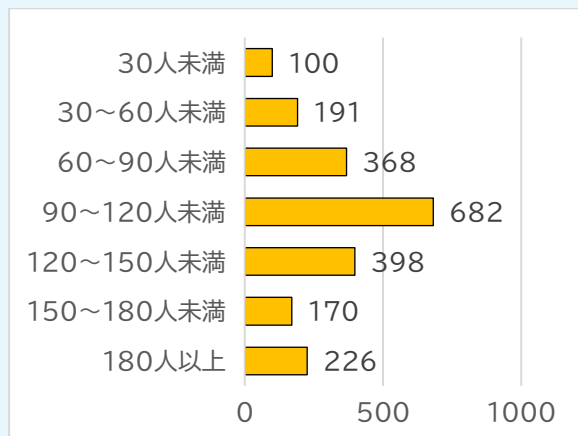
Q 3 ご回答頂いている方の施設の法人格をお答え下さい。(n=2135)



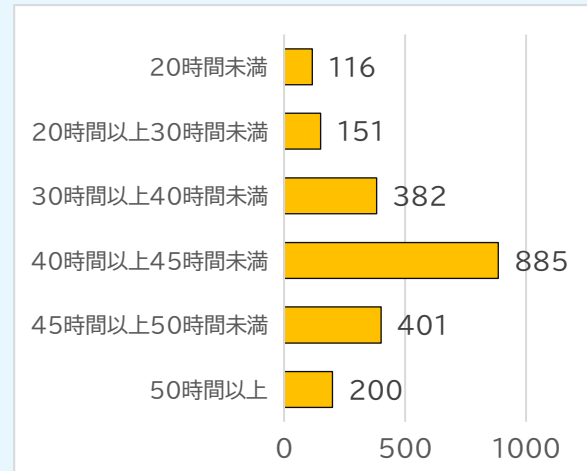
Q4 ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答えください。(n=2135)



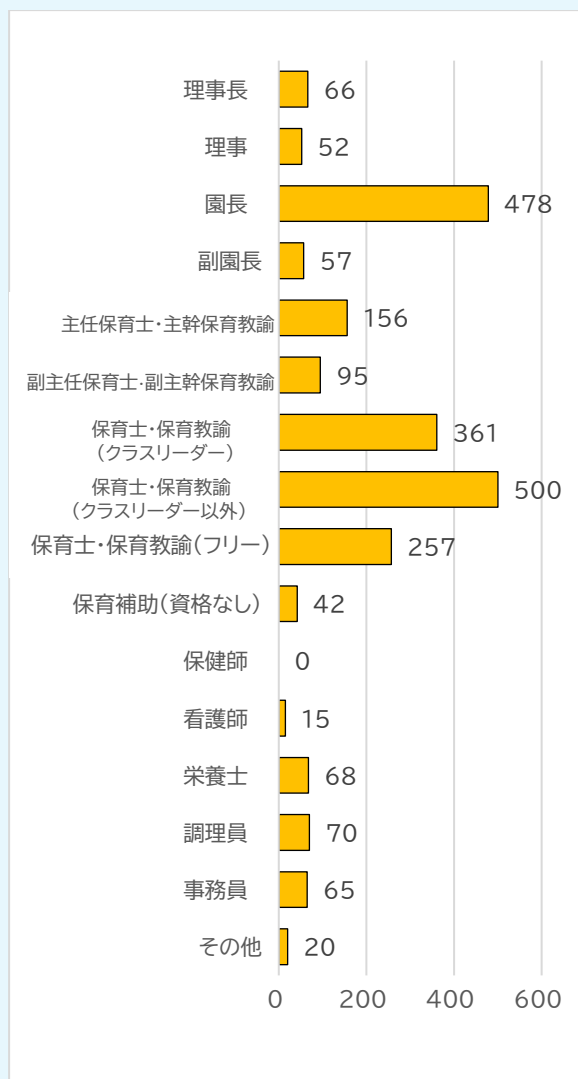
Q 5 貴施設の在園児の規模について
お答え下さい。(n=2135)



Q 7 あなたの1週間の実労働時間を教えて下さい。(n=2135)



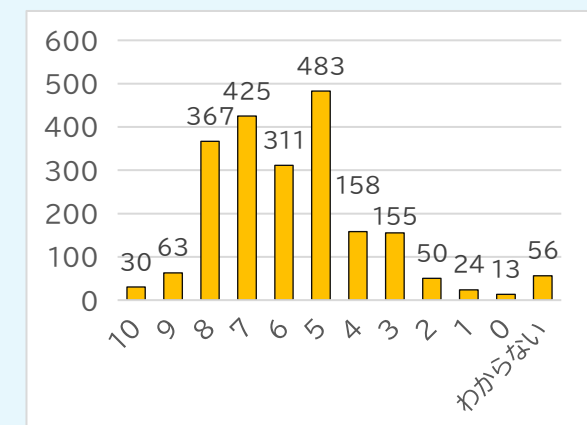
Q 6 ご回答頂いている方の役職をお
答え下さい。(複数回答可) (n=2135)



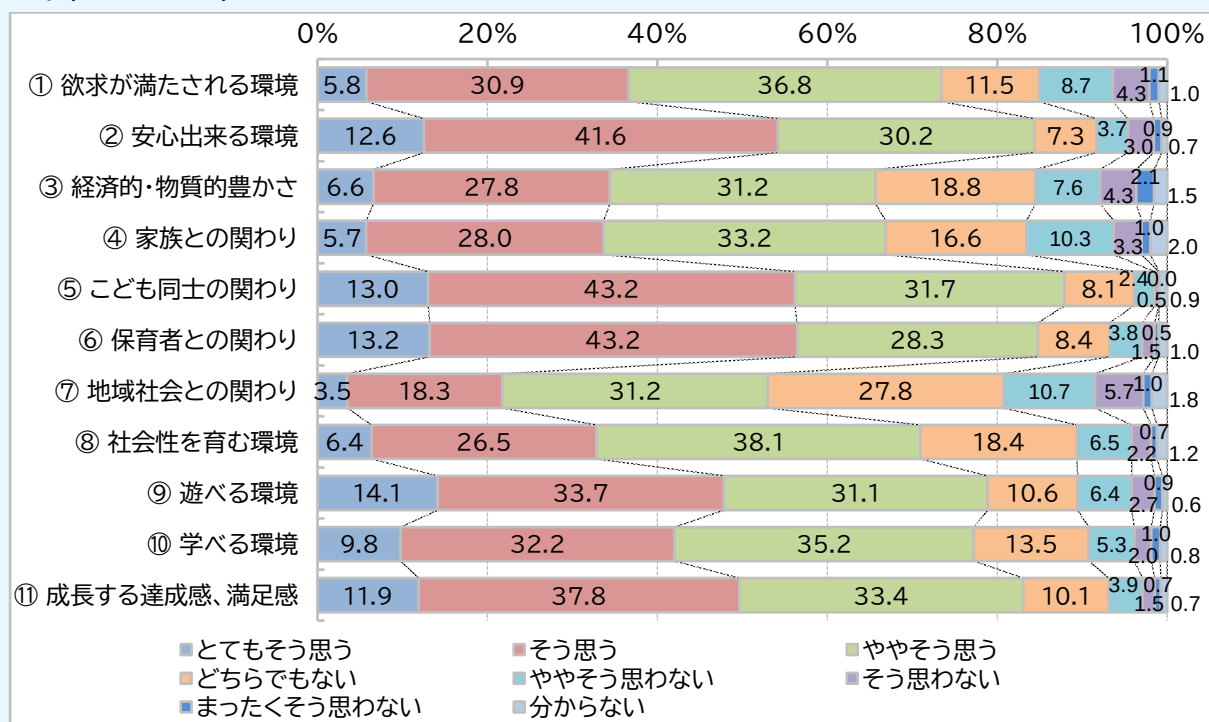
Q8 well-being(ウェルビーイング)』と
は、「身体的」「心理的」「社会的」にすべて
満たされた状態であり、物質的豊かさで
はなく、「今の心地良さを重視して生きる
こと」と言われていますが、知っていまし
たか？(n=2135)



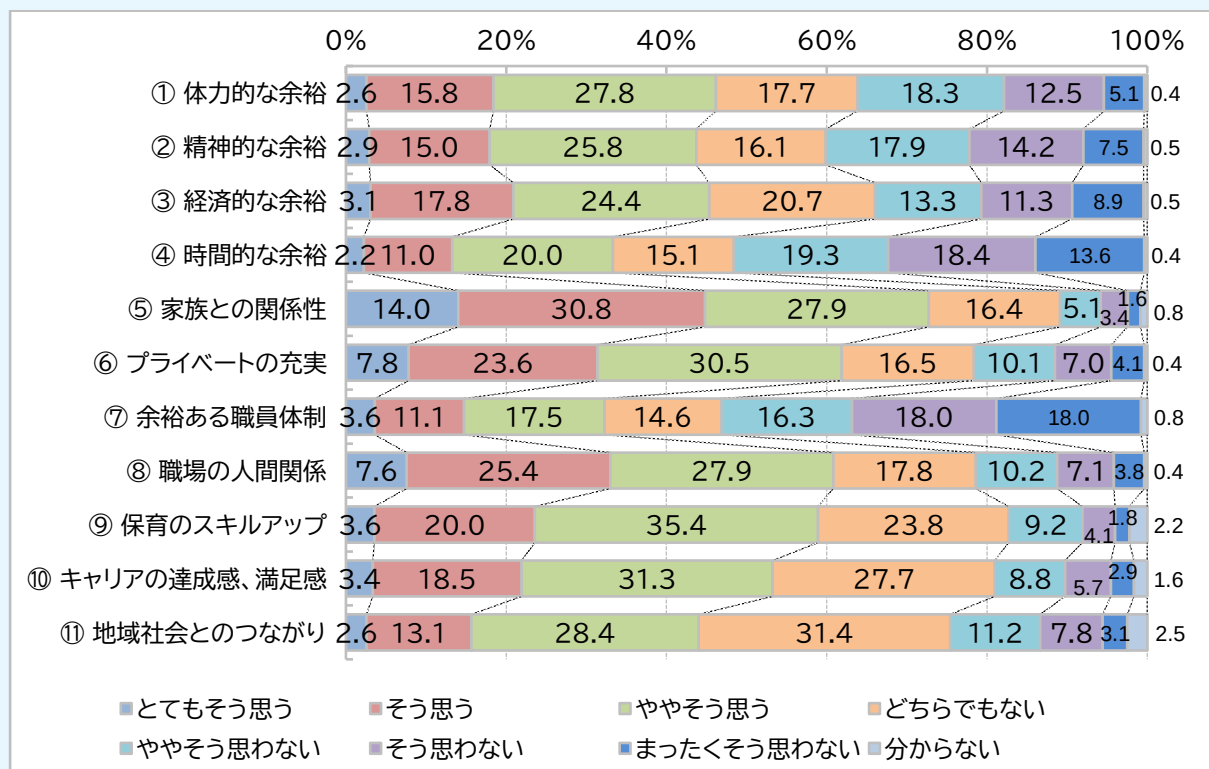
Q9 ウェルビーイングな状態を 10 段階
で(10 が最高の状態)で表すとすると、あ
なたの今のウェルビーイングはどれくら
いですか？(n=2135)



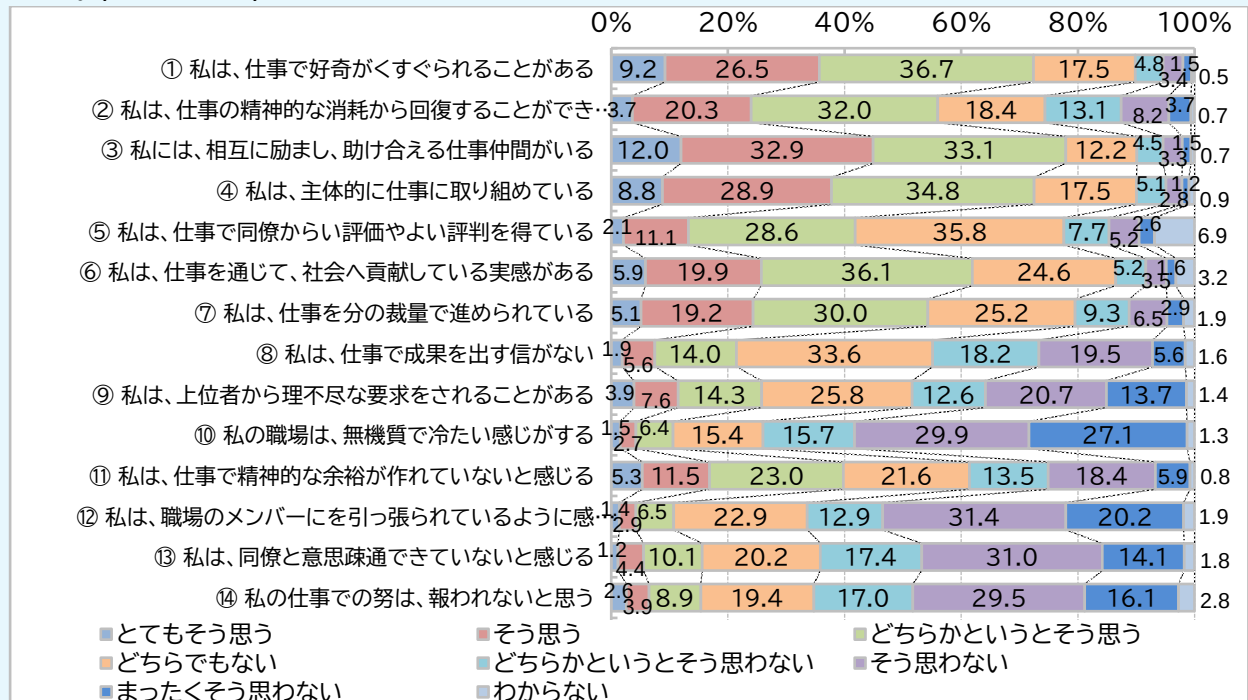
Q10 あなたが普段保育(仕事)を行う上で接している総合的なこどもの姿として次にあげる項目が満たされている(整っている)と思いますか？最も近い項目をお選び下さい。(n=2135)



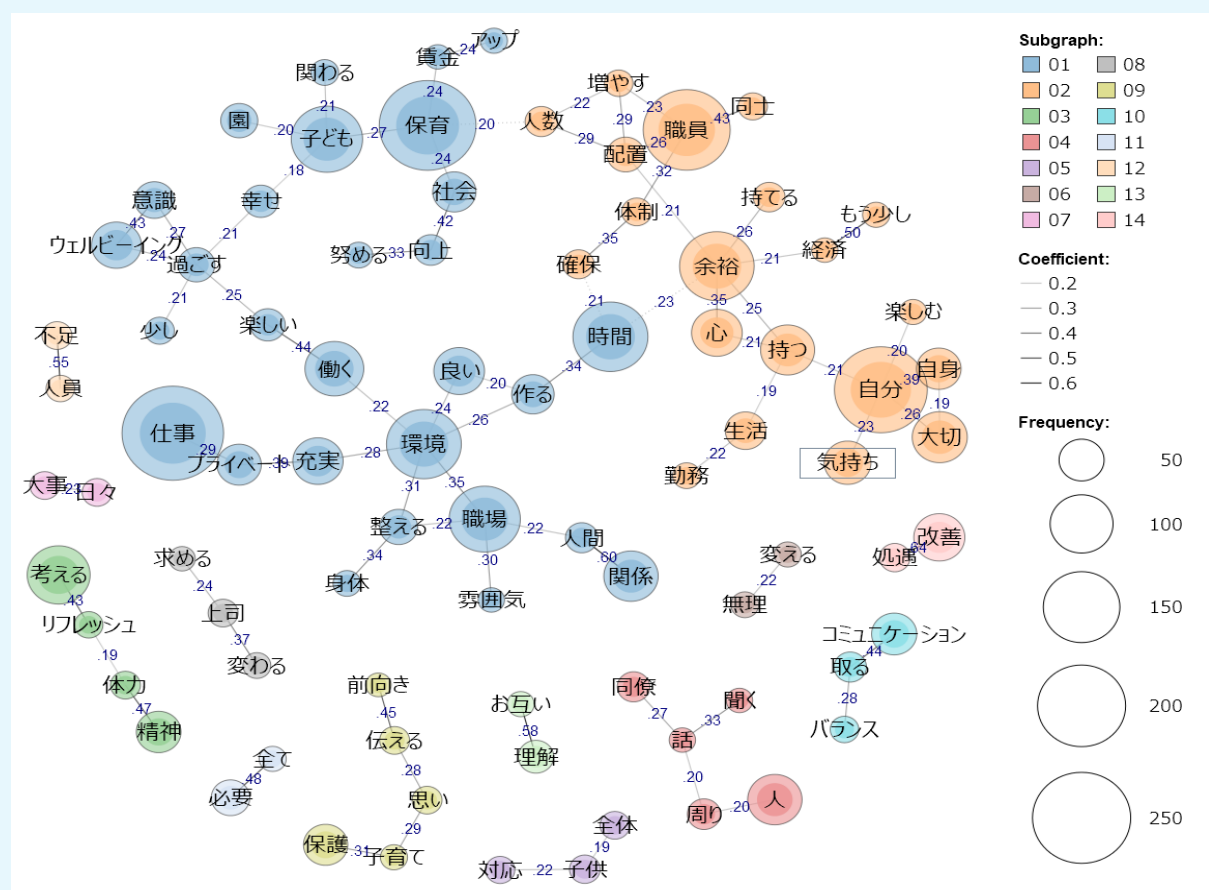
Q11 あなた自身は次にあげる項目について現在満たされて(整って)いますか？最も近い項目をお選び下さい。(n=2135)



Q12 次にあげる項目について、働く上でのあなたの気持ちに最も近いものをお選び下さい。(n=2135)



Q13. ウェルビーイングになるための取り組みを今後どのように行っていきたいですか。(自由記述:300文字まで)(n=890)



公益社団法人 全国私立保育連盟 調査部
「こどもと保育者における生活満足度(ウェルビーイング)に関する調査」
結果概要

調査結果の分析、考察については調査部内で担当者を決め、なるべく多くの視点から全体像を把握できるように努めた。今回の調査から見えてきた6つの考察と5つのコラムのテーマ概要を掲載順に紹介する。

まとめ	保育者がウェルビーイングを知り、自身のウェルビーイングを高めることが 子どものウェルビーイングに寄与する	P.7
ガイダンス	ウェルビーイングの基礎知識 主観的幸福と客観的幸福／ウェルビーイングとハピネスの違い	P.8
考察①	言葉の意味と認知度について ～ウェルビーイングの認知度はわずか 22%～	P.9
コラム①	感情について	P.11
考察②	ウェルビーイングの状態に影響を与える背景 ～副主任、リーダー等中間層のウェルビーイングの低さが際立つ～	P.12
コラム②	ウェルビーイングを高める習慣(ウェルビーイングマネジメント)	P.16
考察③	保育士から見た子どもの満たされ具合 ～自身の満たされ具合に比例する子どもの幸福度～	P.17
考察④	保育士のウェルビーイング詳細 ～時間的余裕と職員配置に現れる不満と経営陣の見立てのギャップ～	P.19
コラム③	自分らしくいられる状態	P.21
考察⑤	保育業界と医療福祉業界の幸福度比較 ～管理職による職場のウェルビーイングを深める取り組みを～	P.22
コラム④	ウェルビーイングにおける既往の研究	P.24
考察⑥	自由記述のウェルビーイング度別の分類とワードクラウド ～現場からの率直な報告～	P.25
コラム⑤	自由記述の最後に	P.32

まとめ 保育者がウェルビーイングを知り、自身のウェルビーイングを高めることが、子どものウェルビーイングに寄与する

近年、様々な場面で耳目に触れるようになった「ウェルビーイング」。こどもまんなか社会を形作る上のキーワードとして、こども大綱の根幹を成し、保育現場における重要性がますます注目されています。今回の調査では、このウェルビーイングという概念が保育者にはまだまだ浸透していない現状が明らかになると同時に、**保育者自身のウェルビーイング(幸福度)と子どもたちのウェルビーイング(幸福度)に大きく関連がある**ことが分かりました。

子どもたちのために第一に思い働く保育現場の職員に今求められるのは、まずは、ウェルビーイングという概念を自分自身の物とすることです。物質的経済的豊かさに幸せを感じる傾向の強い現代ですが、幸福であるには、心身が健康であるだけでなく、社会的にも良好であることが必要です。ウェルビーイングについての理解を深めることで、保育者自身がウェルビーイングを向上させるため自己の状態やニーズを把握し、より良い状態へと至る方策を見つけようとするようになります。また、保育者のウェルビーイングを整えることは、子どもたちのウェルビーイングに直結します。

調査の中では、現在の幸福度を尋ねていますが、**保育現場を担う副主任保育士・副主幹保育教諭、保育士・保育教諭の幸福度の低さ**が目につきました。子ども・保護者・同僚・管理職を相手に気を遣い、時間に追われながら奮闘する現場の先生方の苦労が目につかびます。また先行する幸せ度調査に準拠した設問からは、同じく現場の職員の「時間の余裕」や「職員体制」に対する不満が現われており、余裕のある職員体制が可能となる**配置基準等の大幅な改善が現場では求められている**ことが分かります。これからも様々な保育施策が打ち出されると思いますが、現場の保育士のウェルビーイング向上も意識され反映されることを切に望みます。

こどもまんなか社会の到来を迎えて、最終的には、子どものウェルビーイングをいかに高めていくかも課題となります。その際、調査の観点からは、子ども自身の主観的な幸福をどのように客観的に捉え数値化するかが一つの鍵となりますが、実際は非常に難しいことです。その代わりに言える一つ確かなことは、子どものウェルビーイングの指標の一つは、いつも**子どもとその保護者の笑顔**であるということです。保育を通じて得られる両者の笑顔が、現場の保育者の中で評価の低い「他者承認」と「他者貢献」を高める材料となり、子どもたちのウェルビーイング向上につながる好循環を生んでいくのではないのでしょうか。

最後になりますが、保育者の皆様が日々行う名もなき献身に対する社会の認識を高めることが、私たち保育団体に課せられた役割であると考えています。より良い保育環境、勤務環境を構築し、子どもたちと保育者が生きる喜びを感じられる社会を作り上げるため、今後も調査と情報発信に努めていきます。

<考察担当者>

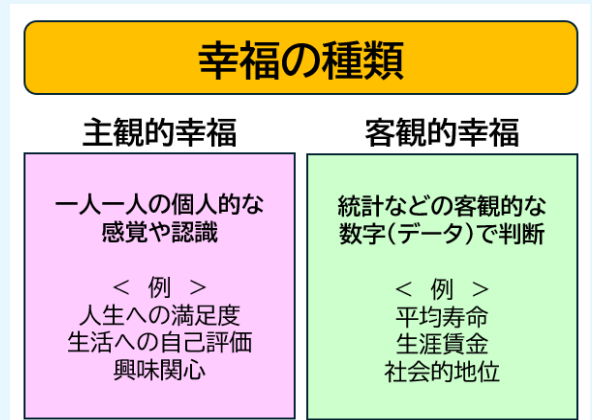
齊藤 勝	(山形県・子供の城保育園)
川島 俊樹	(岐阜県・川島東こども園)
久居麻紀子	(千葉県・音のゆりかご保育園)
小川 幸伸	(和歌山市・のざき保育園)
田中 育美	(徳島県・育英認定こども園)
桑原 静香	(長崎県・認定こども園島地シティ夜間保育園)
津村 侑弥	(秋田県・明照保育園)

ガイダンス ～ウェルビーイングの基礎知識～

主観的幸福と客観的幸福

客観的な幸福とは、外部の状況や物事に基づいて人々の幸福を測定する方法で、例えば健康状態や収入、社会的立場などが挙げられます。一方、主観的な幸福は、一人一人が自分の幸福をどのように感じるかに関するものです。つまり、自分が幸せだと感じるかどうか、自分の生活に満足しているかどうかなどを測定します。客観的な幸福は外部の状況に基づいていますが、主観的な幸福は個々の感情や経験に基づいています。

これまで幸福を論じる際には、どちらか一方の視点から論じられることが多かったがウェルビーイングにおいては、双方バランス良く取り入れることで、より総合的に幸福を考えます。



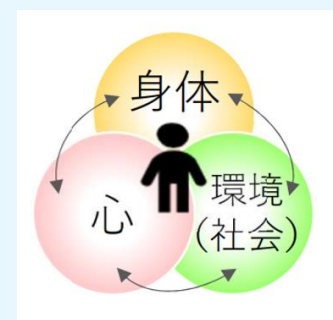
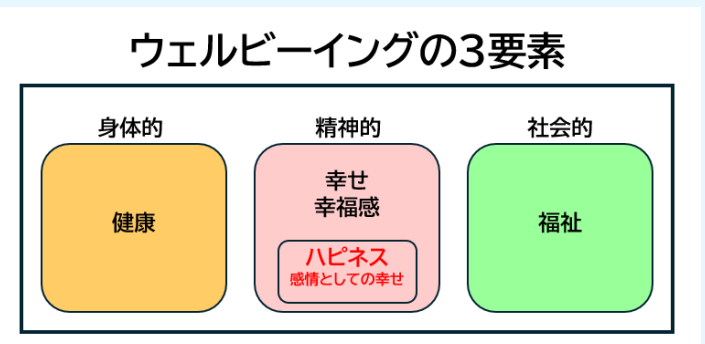
ウェルビーイングとハピネスの違い

幸福と和訳される英語にハピネス(happiness)がありますが、ハピネスは一過性の感情的に幸せな状態、すなわち短期的な心の幸福状態を表すものであり、ウェルビーイングは『幸福な人生』のように長期的な心の状態を表すとされています。よってハピネスはウェルビーイングよりも狭義の単語であり、ウェルビーイングの要素の一つと考えることができます。(右図)

幸福は心で感じるものなので、精神が満たされているかということが全体の幸福感に影響する割合は大きいのですが、ハピネスは心が感じるその時々幸福感とされ、お金や物や地位の獲得によって得られる感情も含まれます。ハピネス＝ウェルビーイングとならない例として、経済的に豊かになりたいと考えた人が休み無く働いた結果、手元にお金を残すという目標は達成されましたが仮に身体をこわして病気になったとしたら幸福とは言えません。

また違う例としては経済的に豊かで健康上にも問題なく生活出来ていても、社会から孤立したり、人と人とのつながりが少ない状況が幸福ではないことはコロナ禍を思い出せば想像に難くありません。やはり身体的・精神的・社会的に健全でバランスよく満たされた状態のイメージがこれから目指すべき幸福感と言えます。

また社会における競争は世の中の発展に必要なことですが、かつての高度成長期の日本のように金・物・地位における他者のとの相対的な比較の優劣によって得られる感情も真の意味での幸福とは言えないような気がします。



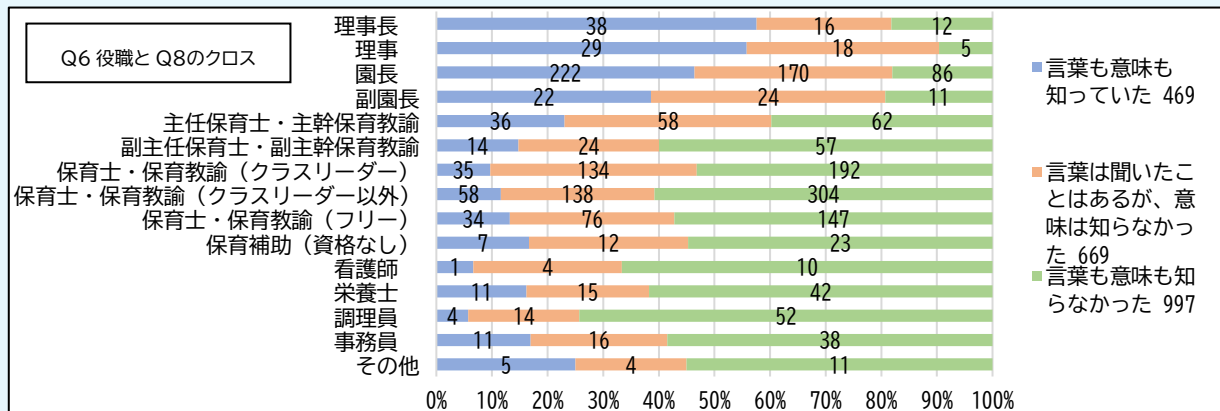
考察① Q8 言葉と意味の認知度 について

～ウェルビーイングの認識度はわずかに 22%～

Q8 well-being(ウェルビーイング)とは、「身体的」「心理的」「社会的」にすべて満たされた状態であり、物質的豊かさではなく、「今の心地良さを重視して生きること」と言われていますが、知っていましたか？(n=2135)		全体	言葉も意味も知っていた	言葉は聞いたことはあるが、意味は知らなかった	言葉も意味も知らなかった
全体		(2135)	22.0	31.3	46.7
Q3 ご回答頂いている方の施設の法人格をお答え下さい。	社会福祉法人	(1907)	22.5	31.4	46.1
	学校法人	(58)	15.5	32.8	51.7
	宗教法人	(38)	21.1	28.9	50.0
	NPO法人	(4)	75.0	0.0	25.0
	株式会社	(74)	10.8	31.1	58.1
	有限会社	(21)	23.8	38.1	38.1
	個人	(4)	50.0	25.0	25.0
	公立	(5)	0.0	40.0	60.0
	一般財団法人	(1)	0.0	0.0	100.0
	公益財団法人	(9)	22.2	11.1	66.7
	一般社団法人	(2)	0.0	50.0	50.0
	公益社団法人	(1)	0.0	0.0	100.0
	医療法人	(1)	0.0	100.0	0.0
	その他	(10)	30.0	30.0	40.0
Q4 ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答えください。	保育所	(1303)	22.5	30.5	47.0
	幼保連携型認定こども園	(520)	23.8	31.9	44.2
	保育所型認定こども園	(237)	16.9	36.3	46.8
	地域裁量型認定こども園	(1)	0.0	100.0	0.0
	幼稚園型認定こども園	(2)	0.0	50.0	50.0
	小規模保育A	(58)	13.8	29.3	56.9
	小規模保育B	(2)	50.0	0.0	50.0
	その他	(12)	25.0	8.3	66.7
Q5 貴施設の在園児の規模についてお答えください。	30人未満	(100)	17.0	29.0	54.0
	30～60人未満	(191)	32.5	27.2	40.3
	60～90人未満	(368)	22.8	32.1	45.1
	90～120人未満	(682)	20.5	33.9	45.6
	120～150人未満	(398)	21.6	29.9	48.5
	150～180人未満	(170)	19.4	30.0	50.6
	180人以上	(226)	20.8	30.5	48.7
Q6 ご回答頂いている方の役職をお答えください。	理事長	(66)	57.6	24.2	18.2
	理事	(52)	55.8	34.6	9.6
	園長	(478)	46.4	35.6	18.0
	副園長	(57)	38.6	42.1	19.3
	主任保育士・主幹保育教諭	(156)	23.1	37.2	39.7
	副主任保育士・副主幹保育教諭	(95)	14.7	25.3	60.0
	保育士・保育教諭(クラスリーダー)	(361)	9.7	37.1	53.2
	保育士・保育教諭(クラスリーダー以外)	(500)	11.6	27.6	60.8
	保育士・保育教諭(フリー)	(257)	13.2	29.6	57.2
	保育補助(資格なし)	(42)	16.7	28.6	54.8
	保健師	(0)	0.0	0.0	0.0
	看護師	(15)	6.7	26.7	66.7
	栄養士	(68)	16.2	22.1	61.8
	調理員	(70)	5.7	20.0	74.3
	事務員	(65)	16.9	24.6	58.5
	その他	(20)	25.0	20.0	55.0
Q7 あなたの1週間の実労働時間を教えてください。	20時間未満	(116)	11.2	29.3	59.5
	20時間以上30時間未満	(151)	13.9	23.2	62.9
	30時間以上40時間未満	(382)	16.0	34.8	49.2
	40時間以上45時間未満	(885)	21.7	32.4	45.9
	45時間以上50時間未満	(401)	24.2	31.7	44.1
	50時間以上	(200)	42.5	26.5	31.0

『well-being(ウェルビーイング)』とは、「身体的」「心理的」「社会的」にすべて満たされた状態であり、物質的豊かさだけでなく、「今の心地良さを重視して生きること」と言われている。

まず Q8 の単純集計から分かることは、ウェルビーイングの言葉も意味も理解している割合は、わずか 22%しかなく、聞いたことがある割合も 31%ということだ。外来語は巷に溢れているが、スキームやリテラシー、インキュベーションなど意味が分からずに困る言葉もたくさんある。ウェルビーイングもこうした言葉と同様に、身近からは程遠い、まさに難解な言葉であることが、数字から判明した。聞いたこともない「ウェルビーイング」について尋ねられ、回答をしなければならなかった回答者の困惑や苦労が偲ばれる。



Q6の役職別の回答とのクロス集計からは、管理職である理事長、理事、園長は半数程度が言葉も意味も知っており、8割が「言葉は聞いたことがある」との回答であることが分かり、管理職のウェルビーイングに対する認識度理解度の高さがうかがえた。一方で、副主任保育士やその他職員は、半数以上が知らなかった。

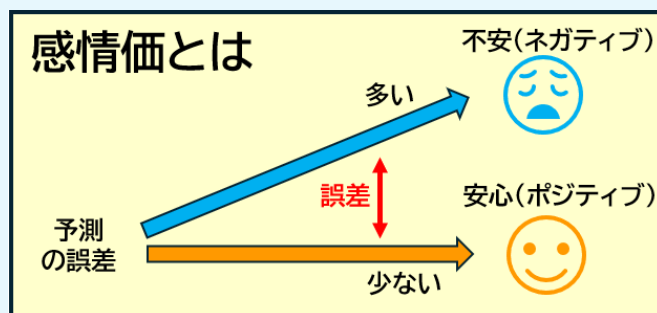
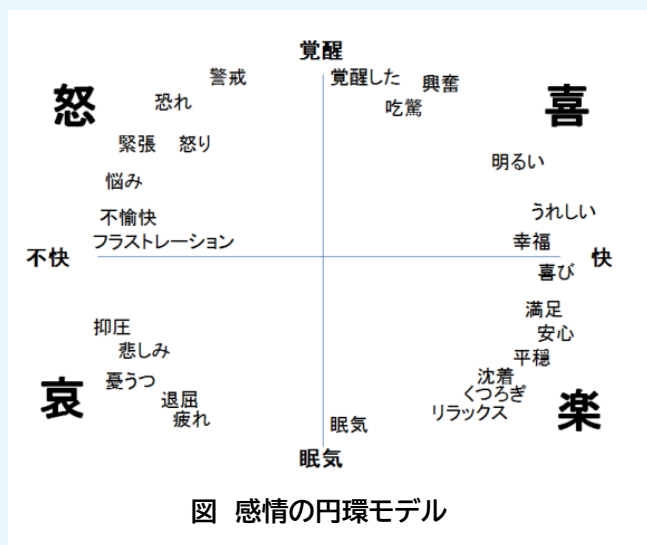
Q7 の労働時間とのクロス集計からは、実労働時間別に見ると、時間数が多いほど意味も言葉も知っている割合が増え、労働時間が短くなるほど意味も言葉も知らない割合が増えていることが分かった。

Q6役職と Q7労働時間のクロス		全体	20時間未満	20時間以上30時間未満	30時間以上40時間未満	40時間以上45時間未満	45時間以上50時間未満	50時間以上
全体		(2135)	116	151	382	885	401	200
Q6 ご回答頂いている方の役職をお答えください。	理事長	(66)	0	1	2	22	16	25
	理事	(52)	0	1	6	20	10	15
	園長	(478)	2	2	55	210	102	107
	副園長	(57)	0	0	4	36	10	7
	主任保育士・主幹保育教諭	(156)	1	2	23	76	38	16
	副主任保育士・副主任保育教諭	(95)	0	1	11	53	24	6
	保育士・保育教諭(クラスリーダー)	(361)	7	6	45	154	113	36
	保育士・保育教諭(クラスリーダー以外)	(500)	18	50	122	204	88	18
	保育士・保育教諭(フリー)	(257)	59	63	60	55	16	4
	保育補助(資格なし)	(42)	8	11	13	9	0	1
	保健師	(0)	0	0	0	0	0	0
	看護師	(15)	2	2	1	8	2	0
	栄養士	(68)	1	2	14	36	15	0
	調理員	(70)	13	5	16	30	6	0
	事務員	(65)	4	3	26	25	3	4
	その他	(20)	4	4	4	7	1	0

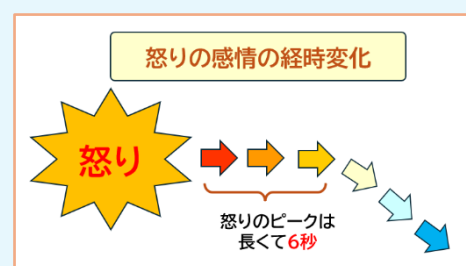
Q7 の労働時間と Q6の役職のクロスから、労働時間が長い役職は園長理事長の管理職であることが分かり、当然の帰結と言えよう。

ウェルビーイングという言葉がまだまだ浸透していない現状が何われ、育ちビジョンを現場レベルで語るにはもう少し丁寧な説明が求められる。

次に感情価(右図の横軸)ですが、感情価は快／不快で表されるように、ある環境(状況)における人間の精神生理学的バロメーターであり、環境の状態を直感的に知るために私たちは感情を持っているとも言えます。



そして感情価を決めるのは環境や自分自身の体調に対する予測誤差の大きさと時間変化であるとされています。一般的には予測誤差が減少する(予測通りである)とポジティブな感情になり、予測誤差が増加するとネガティブな感情になります。現代では例外的に嬉しいサプライズもありま



私たちが毎日生きていくうえで、心穏やかに幸せに暮らすためにも様々な環境変化をできるだけ正確に予測することが必要とされています。しかし環境は常に変化するため、いつでも正確な予測をすること自体が難しいことを考えると予測誤差の受け止め方が大切になってきます。

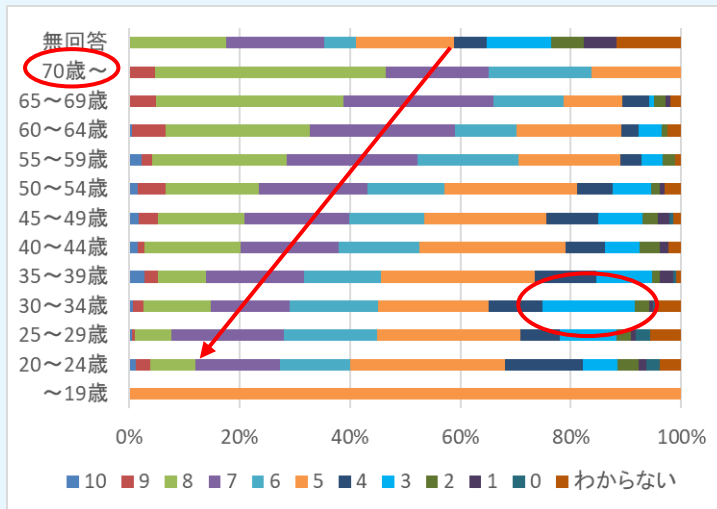
予測誤差には2種類あり、1つは結果が期待したよりも良かった、つまりポジティブな予測誤差であり、もう1つはその逆の結果が期待したよりも悪かった場合、つまりネガティブな予測誤差です。仕事やプライベートの出来事で予想通りの結果が出来なかったとしても、その過程の中で良かったことに着目すること(例えば試合には負けたが試合中に良いプレーがあった等)で、次の事柄に立ち向かう動機づけにする考え方がウェルビーイングには必要であり、人生経験を積むことによって自然に身につくこともあれば、意識的に訓練して習得することもできます。

考察② Q9 ウェルビーイングに影響を与える背景

～副主任、リーダー等中間層のウェルビーイングの低さが際立つ～

年齢、およびQ2～8と Q9のクロス集計		Q9 ウェルビーイングな状態を10段階(10が最高の状態)で表すとすると、あなたの今のウェル ビーイングはどれ位ですか？													
		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	わ か ら ない	全体	
全体		30	63	367	425	311	483	158	155	50	24	13	56	(2135)	
年齢	～19歳	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	(1)	
	20～24歳	2	4	13	24	20	44	22	10	6	2	4	6	(157)	
	25～29歳	1	1	13	40	33	51	14	20	5	2	5	11	(196)	
	30～34歳	1	3	19	22	25	31	15	26	4	1	1	7	(155)	
	35～39歳	6	5	18	37	29	58	23	21	3	5	1	2	(208)	
	40～44歳	4	3	44	45	37	67	18	16	9	4	0	6	(253)	
	45～49歳	5	10	45	54	39	63	27	23	8	6	2	4	(286)	
	50～54歳	4	13	44	51	36	62	17	18	4	2	0	8	(259)	
	55～59歳	6	5	64	62	48	48	10	10	6	0	0	3	(262)	
	60～64歳	1	12	51	51	22	37	6	8	2	0	0	5	(195)	
Q2 ご回 答頂いて いる方の 施設があ る市区町 村の人口 をお答え 下さい。	65～69歳	0	5	35	28	13	11	5	1	2	1	0	2	(103)	
	70歳～	0	2	18	8	8	7	0	0	0	0	0	0	(43)	
	1万人未満	2	0	14	8	11	12	6	3	2	1	1	3	(63)	
	1～ 3万人	1	5	19	29	20	13	9	13	3	2	0	1	(115)	
	3～ 5万人	2	5	23	24	22	16	5	4	0	0	0	2	(103)	
	5～ 10万人	3	8	34	37	23	43	14	9	7	6	2	4	(190)	
	10～ 20万人	4	9	35	43	34	53	11	16	2	0	0	7	(214)	
	20～ 50万人	3	10	54	68	44	60	24	21	6	3	3	3	(299)	
	50～100万人	4	11	74	60	54	92	21	23	11	4	1	9	(364)	
	100万人以上	6	12	74	101	40	80	28	20	10	2	1	4	(378)	
Q3 ご回 答頂いて いる方の 施設の法 人格をお 答え下さ い。	わからない	5	3	40	55	63	114	40	46	9	6	5	23	(409)	
	社会福祉法人	25	58	331	382	281	423	143	135	46	22	11	50	(1907)	
	学校法人	0	1	16	10	6	16	2	5	0	0	0	2	(58)	
	宗教法人	3	0	0	5	8	12	4	5	0	0	0	1	(38)	
	NPO法人	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	(4)	
	株式会社	1	2	12	16	9	18	5	4	3	2	1	1	(74)	
	有限会社	0	0	4	4	3	6	2	1	1	0	0	0	(21)	
	個人	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	(4)	
	公立	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	(5)	
	一般財団法人	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	(1)	
Q4 ご回 答頂いて いる方の 施設の施 設種別を お答えく ださい。	公益財団法人	0	0	2	2	1	0	2	1	0	0	1	0	(9)	
	一般社団法人	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	(2)	
	公益社団法人	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)	
	医療法人	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	(1)	
	その他	0	0	0	2	1	4	0	2	0	0	0	1	(10)	
	保育所	18	36	209	250	173	302	117	102	36	19	10	31	(1303)	
	幼保連携型認定こども園	9	15	107	116	94	91	28	32	9	4	2	13	(520)	
	保育所型認定こども園	2	11	34	43	37	71	11	15	2	1	0	10	(237)	
	地域裁量型認定こども園	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	(1)	
	幼稚園型認定こども園	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(2)	
Q5 貴施 設の在園 児の規模 について お答えく ださい。	小規模保育A	1	1	13	12	4	15	2	5	2	0	1	2	(58)	
	小規模保育B	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	(2)	
	その他	0	0	2	2	2	4	0	1	1	0	0	0	(12)	
	30人未満	2	2	17	17	11	24	8	9	4	1	2	3	(100)	
	30～60人未満	4	9	32	45	29	42	10	12	3	3	0	2	(191)	
	60～90人未満	2	14	59	79	57	83	20	26	13	4	3	8	(368)	
	90～120人未満	4	18	126	137	98	164	50	49	12	5	1	18	(682)	
	120～150人未満	6	11	69	85	57	87	27	22	8	6	5	15	(398)	
	150～180人未満	6	5	25	21	24	40	23	20	3	1	0	2	(170)	
	180人以上	6	4	39	41	35	43	20	17	7	4	2	8	(226)	
Q6 ご回 答頂いて いる方の 役職をお 答えくだ さい。	理事長	2	4	21	16	15	5	0	1	1	0	0	1	(66)	
	理事	1	5	20	14	4	4	0	3	1	0	0	0	(52)	
	園長	10	33	142	114	64	76	12	15	7	3	0	2	(478)	
	副園長	1	1	15	16	8	9	2	2	2	1	0	0	(57)	
	主任保育士・主幹保育教諭	3	3	29	30	29	35	13	10	1	1	1	1	(156)	
	副主任保育士・副主幹保育教諭	1	0	11	12	17	24	10	10	2	2	1	5	(95)	
	保育士・保育教諭(クラスリーダー)	4	4	34	68	45	93	39	40	15	7	4	8	(361)	
	保育士・保育教諭(クラスリーダー以外)	4	3	49	80	86	130	59	45	14	8	3	19	(500)	
	保育士・保育教諭(フリー)	3	6	39	61	38	60	9	24	7	1	0	9	(257)	
	保育補助(資格なし)	1	3	6	8	5	11	0	2	0	1	2	3	(42)	
Q7 あな たの1週間 の実労働 時間を教 えて下さ い。	保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	看護師	0	1	2	5	1	4	1	0	0	0	0	1	(15)	
	栄養士	1	1	14	13	9	13	7	5	0	0	2	3	(68)	
	調理員	0	2	11	12	8	21	6	3	2	1	0	4	(70)	
	事務員	2	3	17	13	7	13	4	1	2	1	1	1	(65)	
	その他	0	3	0	3	4	5	1	2	0	0	1	1	(20)	
	20時間未満	3	5	18	29	12	21	13	4	2	1	1	7	(116)	
	20時間以上30時間未満	2	3	21	31	24	42	5	12	3	2	1	5	(151)	
	30時間以上40時間未満	4	13	76	75	56	91	31	19	8	1	0	8	(382)	
	40時間以上45時間未満	12	21	159	197	128	196	55	57	19	9	4	28	(885)	
Q8 ウェ ルビー ングに ついて	45時間以上50時間未満	5	13	45	60	73	98	39	43	13	6	2	4	(401)	
	50時間以上	4	8	48	33	18	35	15	20	5	5	5	4	(200)	
Q9 ウェ ルビー ングに ついて	言葉も意味も知っていた	16	26	120	116	64	69	22	19	11	2	0	4	(469)	
	言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった	6	17	120	140	120	158	42	42	12	4	3	5	(669)	
	言葉も意味も知らなかった	8	20	127	169	127	256	94	94	27	18	10	47	(997)	

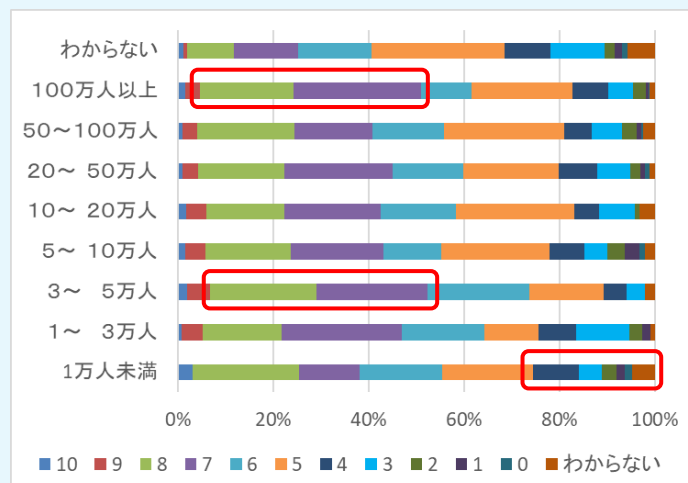
年齢と Q9 のクロス



Q9 では回答者のウェルビーイング度を尋ねているが、その値を各種データとクロス集計し、傾向を探った。

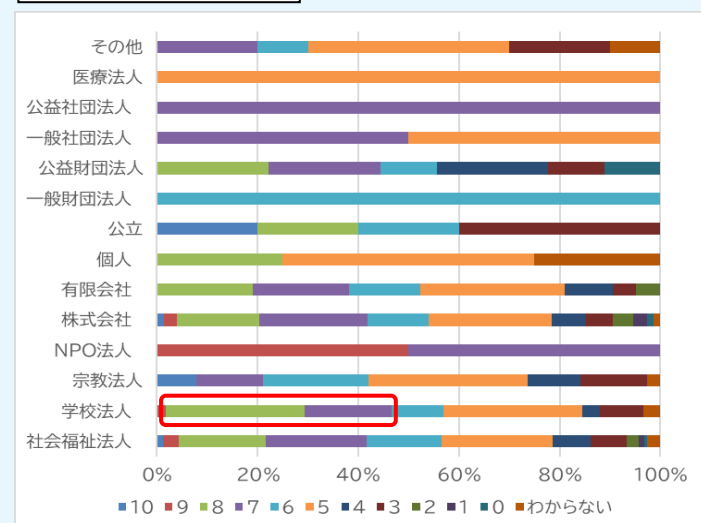
まず初めに、年齢とクロス集計を行った。70 歳以上が最もウェルビーイングが高く、年齢が下がると共に低くなっていた。若年層では、7-8 より中間レベルの5を選ぶ割合が高くなっており、さらに 30 歳～34 歳では、レベル3の割合も高かった。この年代については自身の子育てに追われていることが予想され、保育士の子育て支援も重要であると考えられる。

Q2 市区町村の人口規模と Q9 のク



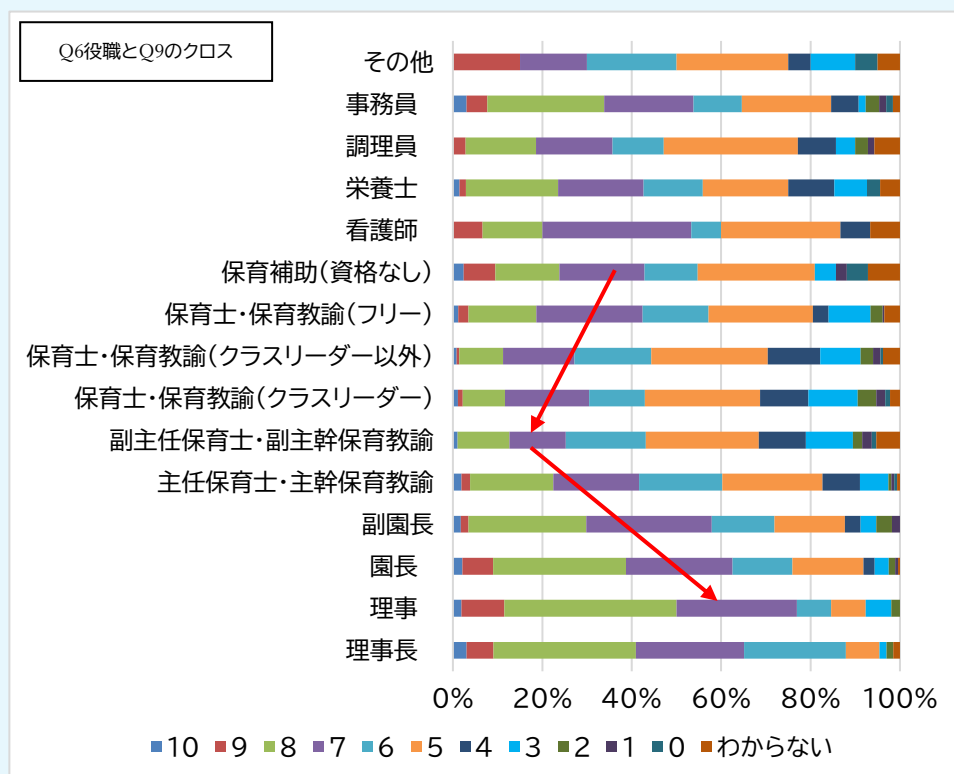
Q2 とのクロス集計により、市町村の規模との関連性を検討した。人口が3～5万人の場合に、ウェルビーイング度が7、8になる割合が多かった。また、100万人以上と多くなった時に7以上になる割合が高くなる一方で、1万人未満では低くなっていた。人数が少ない市町村では、十分な支援が得られていない可能性がある。

Q3 法人各と Q9 のクロス



Q3 とのクロス集計は施設の法人格と比較している。回答の約9割が社会福祉法人であることを考慮する必要があるが、学校法人の場合に 7 および 8 とする回答が多かった。

このウェルビーイング度はもともと、7と5が多く6が少ない 2 層制になっている。Q4とのクロス集計をみると、保育所の場合、 $7+8 \div 5+6$ であるのに対し、幼保連携型認定こども園では $7+8 > 5+6$ 、保育所型認定こども園では $7+8 < 5+6$ となっていた。



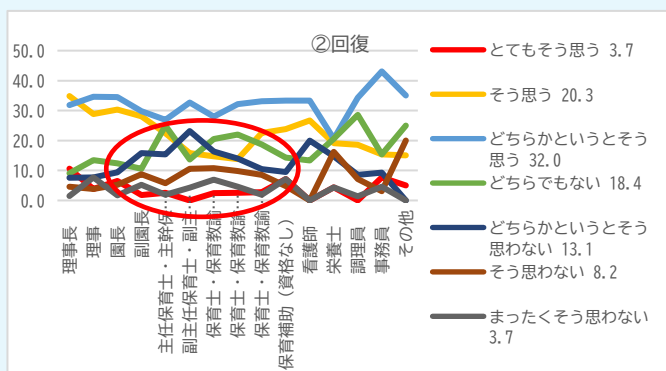
次に役職及び職種とウェルビーイング度の関係について検討した。

保育補助、保育士・保育教諭(フリー)、保育士・保育教諭(クラスリーダー以外)、保育士・保育教諭(クラスリーダー)、副主任保育士・副主任保育教諭と、役職が高くなるほど低くなる一方、主任保育士・主任保育教諭から、

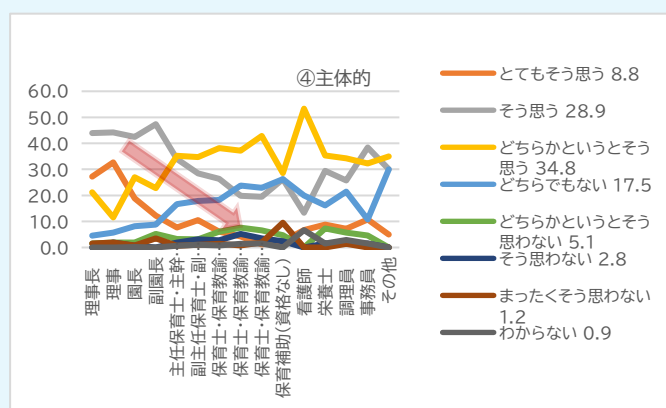
副園長、園長、理事へと管理職になる順に高くなっていった。また、事務員、栄養士、調理員、看護師等現場から離れた職種も高くなる傾向にあった。

直接現場で子どもと関わる保育士のウェルビーイング度が低くなっているが、そこには何があるのだろうか。ここで、Q6とQ12のクロス集計により、役職別にどんな気持ちが大いかに検討した。

Q6役職とQ12の クロス	全体	② 私は、仕事の精神的な消耗から回復することができる(%)					④ 私は、主体的に仕事に取り組んでいる(%)					⑥ 私は、仕事を通じて、社会へ貢献している実感がある(%)					⑦ 私は、仕事を自分の裁量で進められている(%)																
		とても そう 思う	そう 思う	どちら かとい うとそ う思う	どちら かとい うとそ う思わ ない	まっ たたく そう思 わない	わ か ら な い	とても そう 思う	そう 思う	どちら かとい うとそ う思わ ない	どちら かとい うとそ う思わ ない	まっ たたく そう思 わない	わ か ら な い	とても そう 思う	そう 思う	どちら かとい うとそ う思わ ない	どちら かとい うとそ う思わ ない	まっ たたく そう思 わない	わ か ら な い														
Q6 ご回答頂いている方 の役職をお答えください。	(2135)	4	20	32	18	13	8	4	1	9	29	35	18	5	3	1	1	6	20	36	25	5	4	2	3	5	19	30	25	9	6	3	2
理事長	(66)	11	35	32	9	8	5	2	0	27	44	21	5	2	0	2	0	15	39	33	11	0	0	2	0	30	42	14	11	0	2	2	0
理事	(52)	4	29	35	13	8	4	8	0	33	44	12	6	2	2	2	0	21	35	35	4	0	4	0	2	17	42	33	2	0	4	2	0
園長	(478)	6	30	35	12	9	5	2	0	19	42	27	8	2	1	1	0	11	33	40	10	2	2	0	0	13	36	32	13	3	1	1	0
副園長	(57)	2	28	30	11	16	9	5	0	12	47	23	9	5	0	4	0	11	23	42	18	0	2	2	4	11	25	35	14	12	0	4	0
主任保育士・主幹保育教諭	(156)	3	22	27	25	15	6	2	0	8	34	35	17	3	2	1	1	4	23	35	26	6	4	1	1	3	19	32	31	10	4	1	0
副主任保育士・副主幹保育教諭	(95)	0	16	33	14	23	11	4	0	11	28	35	18	3	3	1	1	3	19	38	22	7	4	1	5	0	9	37	29	7	13	1	3
保育士・保育教諭(クラスリーダー)	(361)	2	15	28	20	16	11	7	0	6	26	38	18	6	3	1	1	3	16	34	31	6	4	3	2	2	15	27	31	10	9	5	1
保育士・保育教諭(クラスリーダー以外)	(500)	3	14	32	22	14	10	5	1	4	20	37	24	8	5	1	1	4	14	34	27	8	6	2	5	2	10	28	30	15	9	3	3
保育士・保育教諭(フリー)	(257)	3	23	33	19	11	9	2	2	1	19	43	23	7	4	2	2	2	13	37	33	5	2	2	4	2	10	30	32	9	10	5	3
保育補助(資格なし)	(42)	7	24	33	14	10	5	7	0	2	26	29	26	5	2	10	0	7	7	31	36	5	0	7	7	5	10	21	29	10	5	12	10
保健師	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護師	(15)	0	27	33	13	20	0	0	7	7	13	53	20	0	0	0	7	0	20	33	20	7	7	0	13	7	27	7	13	20	13	0	13
栄養士	(68)	4	19	21	21	15	16	4	0	9	29	35	16	7	1	0	1	6	15	32	25	4	6	4	7	3	18	34	22	10	4	1	7
調理員	(70)	0	19	34	29	9	7	1	1	7	26	34	21	6	1	1	3	3	4	34	46	3	3	1	6	4	16	33	36	4	3	3	1
事務員	(65)	8	15	43	15	9	3	5	2	11	38	32	11	5	2	0	2	6	26	31	26	5	0	2	5	6	32	29	17	8	5	2	2
その他	(20)	5	15	35	25	0	20	0	0	5	30	35	30	0	0	0	0	10	10	35	45	0	0	0	0	0	25	30	30	5	10	0	0



「②仕事の精神的な消耗から回復することができている」という設問に対し、管理職及び主任までは否定的な意見が 30%未満であるのに対し、副主任保育士・副主幹保育教諭は 38%、保育士・保育教諭(クラスリーダー)で 34%が「どちらかというと思う」以下だった。



「④主体的に取り組めているか」について、管理職は取り組めていると思っているが、副主任以下になると、そう思っているとする割合が減少する

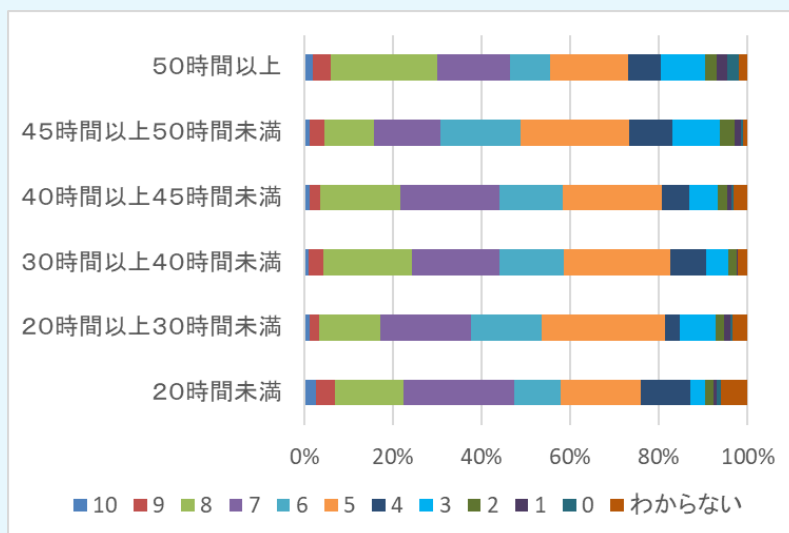
保育の現場の屋台骨を支えている副主任保育士、保育士保育教諭が、社会貢献や裁量等様々な項目において、満足度が低いと感じていることは非常に残念なことである。子どもたちの主体性が尊重される時代に、保育者が主体性を感じられず、自分で

決めることもできないという結果を、どのように捉えたらよいのだろうか。

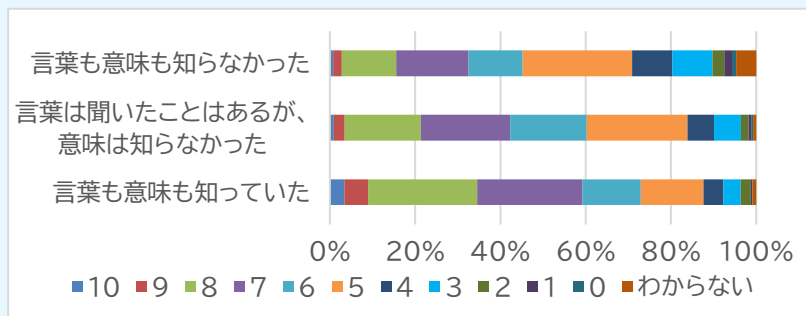
右に Q7 で示される一週間の勤務時間とのクロス集計を行った結果を示す。当初、勤務時間が短いほど、ウェルビーイング度は高くなるのではないかと予測していた。

45 時間以上 50 時間未満の時に低い結果となったのは予想通りであったが、50 時間以上の時、20 時間未満の場合以上に、8以上のウェルビーイング度が高くなった。そして、20時間未満と時間が低くなると、ウェルビーイング度4以下が増えていた。

忙しい中で、5時間程度の残業があることまでは引き受けられることが見受けられる。残業代が付き給与が増える事や役に立っているという自己肯定感が背景にあるのかのかもしれない。また、50 時間以上勤務する場合、管理職が多いことがウェルビーイング度が高い理由であると推測される。



Q8 とのクロス集計結果からは、言葉も意味も知っていた人は言葉も意味も知らなかった人よりも、自身のウェルビーイング度が中央値、平均値ともに高いことが分かった。日頃からウェルビーイングに対する意識が



高く、良い状態を保とうとされているのではないだろうかと推測される。また、ストレスという言葉を知ることでストレスを感じるようになるのと同様に、ウェルビーイングという概念を知ったことで、自らの内にあるウェルビーイングを知り、意識して高めるようになったことも考えられる。

コラム② ウェルビーイングを高める習慣(ウェルビーイングマネジメント)

ウェルビーイングを理解する上で大切な要素である感情において、コントロールの必要性を述べましたが、これは身体的にも社会的にも同様なことが言えます。すなわち人が思うままに生活しているのはウェルビーイングを得ることは難しく、例えば適切な食事や運動をし、日々健康な状態を維持することで身体的に満たされた状態を得られます。また自己管理能力を高めることで時間やリソース(資源・財源など)を効果的に活用することで自己成長や達成感を得られるでしょう。つまりウェルビーイングになるためには意識して取り組むことが求められます。私たちは『身体(健康)に気をつけて』という言葉を実践的に交わしていますが、ウェルビーイングの考えが浸透すれば『幸せに気をつけて』という表現が用いられるかもしれません。

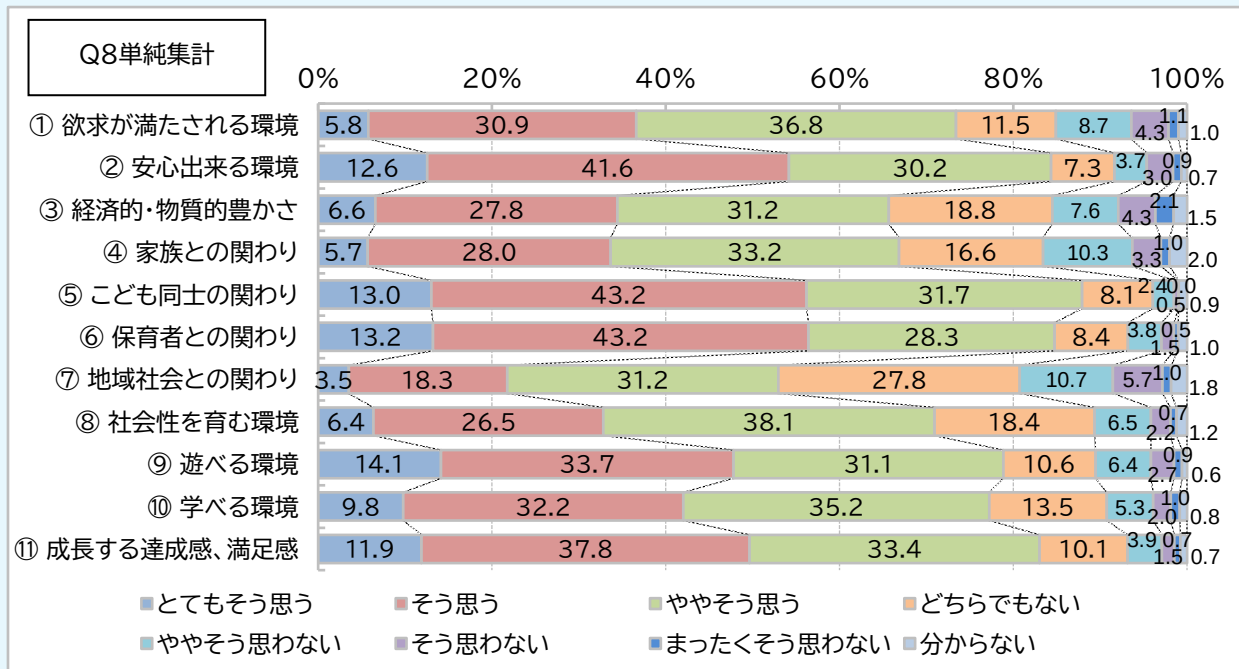
ウェルビーイングは社会的関係、生活の目的や意味、個人の成長や達成感などを包括した幸福感の概念ですので、今後具体的な取り組みとその取り組みが継続して行われる環境作り(ウェルビーイングマネジメント)が一人一人の生活に今後不可欠になってくるでしょう。参考までにウェルビーイングの観点から効果的であるとされる個々の事例を紹介しますが、たくさんの中から何を選択するかこそが『あなたらしさ』であることを忘れないで下さい。

- ・栄養バランスのよいおいしい食事と体の内側から健康を心掛ける
- ・ヨガやランニングなどの運動を通して、心身を鍛える
- ・友人や家族とのコミュニケーションを図り、他者とのつながりを感じる
- ・お気に入りのアロマや快適な寝具など、自分が心地よく過ごせる環境を整える
- ・マインドフルネス(瞑想)を取り入れて、精神状態をポジティブに保つ
- ・自分らしく生きるために、スキルの再習得(リスキリング)に挑戦する
- ・スマホを置いて趣味や仕事などやりたいことに集中し、没頭する時間をつくる

考察③ Q10 保育士から見た子どもの満たされ具合

～自身の満たされ具合に比例する子どもの幸福度～

保育を行う際に、子どもが満たされているかどうか、また満たされていないかどうかを判断するためには、身体的ニーズの満たされ方、安全な環境、感情的な支援、適切な刺激、社会的つながりなどいくつかの要素を考慮する必要がある。



単純集計から見た時、「①欲求が満たされる環境」「②安心できる環境」「⑤子ども同士の関わり」「⑥保育者との関わり」「⑨遊べる環境」「⑩学べる環境」「⑪成長する達成感、満足感」など多くの項目で、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な意見が、概ね8割となっている。保育所での保育の充実ぶりがうかがわれる。

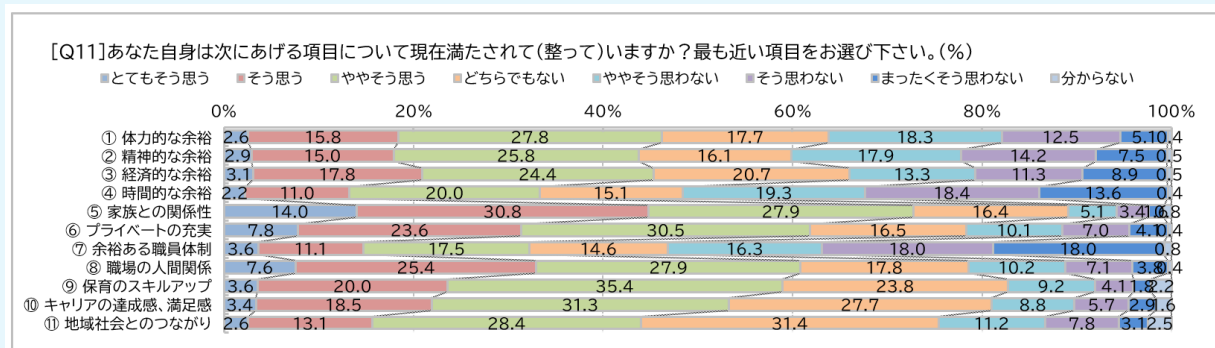
一方で気になるのが、「③経済的、物質的豊かさ」「④家族との関わり」で肯定的な意見が約7割、「⑦地域社会との関わり」が同じく約5割と、比較的低く出ている点である。この3項目は保育所外の要素に起因する子どもたちの姿であり、社会問題となっている子どもの貧困、虐待等が反映されていると考えられる。さらに、新型コロナ時代に一旦閉鎖的になった地域社会との関わりも戻っておらず、今後の課題となっている。

Q10とQ9のクロス		全体	Q9 ウェルビーイングな状態を10段階(10が最高の状態)で表すとすると、あなたの今のウェルビーイングはどれ位ですか？											
			10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	わからない
全体		(2135)	1	3	17	20	15	23	7	7	2	1	1	3
Q10	とてもそう思う	(123)	11	9	35	14	11	14	2	1	2	0	1	2
① 欲求が満たされる環境	そう思う	(659)	1	5	26	26	13	17	5	3	1	1	0	2
	ややそう思う	(785)	1	2	15	24	18	22	7	8	2	1	0	2
	どちらでもない	(246)	0	1	9	12	14	38	9	8	2	0	1	4
	ややそう思わない	(185)	1	0	7	10	14	31	19	10	3	2	1	3
	そう思わない	(92)	0	0	5	3	7	23	9	28	3	7	0	5
Q10	まったくそう思わない	(24)	4	0	0	0	13	13	4	25	4	21	13	4
	分からない	(21)	0	0	0	0	5	10	33	5	5	0	0	43
	とてもそう思う	(268)	6	7	29	17	12	16	5	3	2	1	1	1
	そう思う	(889)	1	3	23	25	14	20	5	5	1	1	0	2
	ややそう思う	(644)	0	2	11	20	19	25	8	10	3	0	1	2
② 安心出来る環境	どちらでもない	(156)	0	0	8	12	11	40	14	6	3	1	1	6
	ややそう思わない	(79)	0	0	6	9	16	25	16	14	4	5	0	4
	そう思わない	(65)	0	0	2	3	8	28	17	22	11	6	0	5
	まったくそう思わない	(20)	5	0	0	0	5	20	5	25	5	25	10	0
	分からない	(14)	0	0	0	0	0	21	7	7	0	0	7	57
Q10	とてもそう思う	(141)	7	10	31	18	13	12	4	4	0	0	1	0
③ 経済的・物質的豊かさ	そう思う	(594)	2	4	25	24	14	20	4	4	1	1	0	2
	ややそう思う	(667)	1	3	18	21	17	24	7	5	2	0	0	2
	どちらでもない	(402)	1	1	9	19	14	29	10	10	2	1	0	3
	ややそう思わない	(162)	0	1	8	17	12	25	14	10	6	1	1	4
	そう思わない	(91)	0	0	7	8	13	16	15	23	10	5	0	2
Q10	まったくそう思わない	(45)	2	0	0	9	7	13	16	20	9	13	7	4
	分からない	(33)	0	0	3	9	9	24	6	15	3	0	0	30
	とてもそう思う	(122)	7	10	25	18	8	19	7	2	2	0	2	0
	そう思う	(597)	1	5	23	24	14	18	5	5	1	1	1	2
	ややそう思う	(708)	1	2	18	23	17	23	7	6	2	0	0	2
④ 家族との関わり	どちらでもない	(354)	1	0	13	14	14	29	11	10	2	1	1	5
	ややそう思わない	(220)	1	1	10	16	15	25	8	11	5	3	1	2
	そう思わない	(70)	0	1	4	9	11	23	13	23	10	4	0	1
	まったくそう思わない	(21)	5	0	0	5	5	19	5	29	19	5	5	5
	分からない	(43)	2	2	5	9	9	26	7	7	7	0	0	26
Q10	とてもそう思う	(278)	6	8	24	20	12	18	5	4	1	2	0	1
⑤ こども同士の関わり	そう思う	(922)	1	3	21	24	14	19	7	6	2	1	1	2
	ややそう思う	(677)	1	1	13	19	18	26	7	9	3	1	0	3
	どちらでもない	(174)	0	1	9	7	10	33	14	14	2	3	2	5
	ややそう思わない	(52)	0	4	2	10	17	33	15	10	6	4	0	0
	そう思わない	(11)	9	0	9	9	18	18	0	18	9	0	0	9
Q10	まったくそう思わない	(1)	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0
	分からない	(20)	0	0	0	0	0	30	10	5	5	0	0	50
	とてもそう思う	(282)	6	7	27	21	11	15	6	4	1	0	1	1
	そう思う	(923)	1	4	21	24	15	19	6	6	2	1	0	1
	ややそう思う	(605)	0	1	13	19	17	27	8	7	2	1	0	3
⑥ 保育者との関わり	どちらでもない	(180)	0	1	7	9	11	34	12	13	4	2	1	6
	ややそう思わない	(82)	0	0	5	11	13	29	12	18	6	4	1	0
	そう思わない	(31)	3	0	0	6	10	23	10	23	10	6	6	3
	まったくそう思わない	(10)	0	0	0	0	10	20	20	0	20	0	20	0
	分からない	(22)	0	5	0	5	0	32	9	9	0	0	5	36
Q10	とてもそう思う	(75)	11	11	25	20	12	9	4	3	3	0	0	3
⑦ 地域社会との関わり	そう思う	(390)	2	5	25	24	14	19	5	3	1	1	0	2
	ややそう思う	(666)	1	2	20	23	14	24	7	6	2	1	0	1
	どちらでもない	(593)	1	2	14	17	17	25	10	8	2	1	1	3
	ややそう思わない	(229)	1	3	11	19	14	24	9	12	3	1	1	1
	そう思わない	(122)	0	2	7	16	13	23	7	18	5	4	1	4
Q10	まったくそう思わない	(21)	5	0	5	14	14	10	10	19	5	5	5	10
	分からない	(39)	3	3	3	5	10	28	8	10	3	3	3	23
	とてもそう思う	(136)	8	12	26	15	13	15	5	1	1	1	1	2
	そう思う	(565)	2	3	24	25	14	19	5	4	1	1	0	2
	ややそう思う	(814)	0	2	17	21	16	25	6	6	2	0	0	2
⑧ 社会性を育む環境	どちらでもない	(393)	1	2	11	15	12	25	13	11	3	1	1	5
	ややそう思わない	(138)	1	1	7	15	15	28	10	16	3	3	0	1
	そう思わない	(48)	0	2	10	15	10	17	10	21	4	8	0	2
	まったくそう思わない	(15)	0	0	0	0	20	20	0	13	20	13	7	7
	分からない	(26)	0	0	0	15	8	19	8	8	4	0	4	35
Q10	とてもそう思う	(302)	6	5	25	19	15	17	5	4	1	1	1	1
⑨ 遊べる環境	そう思う	(719)	1	4	24	25	13	18	5	5	2	1	0	2
	ややそう思う	(663)	1	2	14	21	17	25	7	8	3	0	1	2
	どちらでもない	(226)	0	1	8	12	13	33	12	10	3	2	0	4
	ややそう思わない	(136)	0	2	6	14	13	29	13	15	3	1	1	3
	そう思わない	(57)	0	0	9	4	12	25	14	19	9	5	2	2
Q10	まったくそう思わない	(20)	5	0	0	5	15	20	5	20	5	20	5	0
	分からない	(12)	0	8	0	0	0	8	17	0	0	0	8	58
	とてもそう思う	(209)	7	9	23	16	14	19	5	4	0	1	1	1
	そう思う	(688)	1	4	26	24	12	19	6	4	1	0	0	2
	ややそう思う	(752)	0	1	14	22	18	24	7	8	2	1	0	2
⑩ 学べる環境	どちらでもない	(289)	1	2	8	14	14	32	8	10	3	2	1	4
	ややそう思わない	(114)	0	2	5	11	12	25	19	16	6	1	1	2
	そう思わない	(43)	2	0	7	2	12	19	16	16	12	7	2	5
	まったくそう思わない	(22)	0	0	0	5	18	14	14	14	9	23	5	0
	分からない	(18)	0	6	0	11	0	17	11	17	0	0	6	33
Q10	とてもそう思う	(254)	6	9	21	17	15	19	5	4	2	0	0	2
⑪ 成長する達成感・満足感	そう思う	(806)	1	3	25	25	13	18	5	4	2	1	1	2
	ややそう思う	(713)	1	1	12	19	17	27	9	8	2	1	0	2
	どちらでもない	(216)	0	1	6	12	14	28	13	15	3	1	1	6
	ややそう思わない	(84)	0	0	6	17	13	30	11	14	6	2	0	1
	そう思わない	(31)	3	0	10	3	0	19	10	13	26	13	0	3
Q10	まったくそう思わない	(15)	0	0	0	7	27	7	13	20	0	13	13	0
	分からない	(16)	0	0	0	13	6	25	13	0	0	0	0	44

また、Q9の回答の保育士のウェルビーイング度と本問とのクロスからは、保育者自身のウェルビーイングが高いほど、子どもの姿がすべての環境において満たされているとみていることが分かる。それは、保育者自身が心身的に、幸福を感じており、心に余裕を持って広い視野の中で子どもの姿を捉えることができているからだろう。まさに、目配り・気配り・心配り等の観察眼がより磨かれている状態であるとも感じられる。同様に、保育者自身のウェルビーイングが低いことと、子どもの姿が満たされていないと捉える傾向があることにも関連があることが分かる。保育者自身の心身的な悩みが子どもの姿に投影されているとも、子どものウェルビーイング度の低さに影響を受けて自身のウェルビーイング度も下がっているとも考えられる。

考察④ Q11 保育士自身のウェルビーイングの詳細

～時間的余裕と職員配置に現れる不満と経営陣の見立てのギャップ～



単純集計から見た時、Q10 の子どもの姿とは対照的に、Q11 の保育士自身の姿については、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な評価が 5 割を切る項目も多いという結果が出ている。特に「④時間的余裕」、「⑦余裕ある職員体制」については、肯定的な評価が 3 割台となっており、保育現場の悲鳴が聞こえてくるようだ。これらが、同じく 4 割台に沈む「①体力的な余裕」「②精神的な余裕」「③経済的な余裕」とも繋がっているようで、ここ数年に亘って取り組んでいる働き方改革や賃金改善などが保育業界全体の気流を変えるほどには至っていないのではないだろうか。

おしなべて評価が低調の中、「⑤家族との関係性」では 7 割、「⑥プライベートの充実」「⑧職場の人間関係」では 6 割が、肯定的に捉えている。保育の現場では良好な人間関係を築くことに努められ、加えて、家族との関係、プライベートの充実が成立することで、ようやく保育というハードワークのバランスが保たれ、現場が成立していると思うと、保育現場の綱渡り感是否が応でも増す。保育士が仕事の上で満足ができる環境が今後整えられて、保育士のウェルビーイング度が向上することを期待しながら、今後定点観測的に、この設問の調査を続ける必要性を感じる。

ウェルビーイング度とのクロス集計では、子どもに対する見方同様に両者に相関がある(次ページ参照)。そのなかで肯定的評価の低かった「⑦余裕のある職員配置」について、Q6の役職とのクロスを見ると、理事長が非常に肯定的であるのに対して、現場の責任を持つ保育士・保育教諭(クラスリーダー)では「まったくそう思わない」が最多となっており、経営のトップと現場の認識の乖離が明らかになった。職員の大量退職等が時折話題になるが、その萌芽がこの対照的な認識の違いに既に現れているのかも知れない。

Q6とQ11⑦のクロス		全体	Q11S7 あなた自身は次にあげる項目について現在満たされて(整って)いますか？最も近い項目をお選び下さい。(%)⑦ 余裕ある職員体制							
			とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない	まったくそう思わない	分からない
全体		(2135)	4	11	18	15	16	18	18	1
Q6	理事長	(66)	5	23	24	12	21	8	8	0
ご回答	理事	(52)	4	12	25	10	21	15	13	0
頂いて	園長	(478)	4	14	21	15	17	15	12	0
いる	副園長	(57)	0	14	21	14	12	25	11	4
方	主任保育士・主幹保育教諭	(156)	4	12	18	15	16	22	13	0
の	副主任保育士・副主幹保育教諭	(95)	3	6	18	16	12	20	25	0
役職	保育士・保育教諭(クラスリーダー)	(361)	3	6	15	14	14	18	30	1
をお	保育士・保育教諭(クラスリーダー以外)	(500)	4	8	14	13	17	21	21	1
答え	保育士・保育教諭(フリー)	(257)	4	16	17	14	18	16	15	1
ください。	保育補助(資格なし)	(42)	12	12	19	12	17	10	14	5
	保健師	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0
	看護師	(15)	0	13	13	13	33	20	0	7
	栄養士	(68)	1	19	13	16	12	19	19	0
	調理員	(70)	1	19	20	14	19	14	11	1
	事務員	(65)	3	12	26	17	9	11	20	2
	その他	(20)	0	5	20	15	20	20	15	5

Q11とQ9のクロス		全体	Q9 ウェルビーイングな状態を10段階(10が最高の状態)で表すとすると、あなたの今のウェルビーイングはどれ位ですか？(%)											わからない
			10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
全体		(2135)	1	3	17	20	15	23	7	7	2	1	1	3
Q11 ① 体力的な余裕	とてもそう思う	(55)	15	15	31	16	5	11	2	0	2	0	0	4
	そう思う	(338)	3	8	31	23	14	13	3	2	0	0	0	2
	ややそう思う	(593)	1	3	24	28	15	19	4	3	1	0	0	2
	どちらでもない	(377)	1	1	12	23	16	31	7	6	0	0	1	3
	ややそう思わない	(390)	1	1	11	15	17	28	13	9	3	1	0	2
	そう思わない	(266)	0	2	4	10	14	30	13	17	3	2	2	3
	まったくそう思わない	(108)	0	1	1	3	7	16	11	24	17	13	4	4
	分からない	(8)	0	0	0	13	0	0	0	13	0	13	0	63
Q11 ② 精神的な余裕	とてもそう思う	(62)	24	13	34	19	6	0	0	0	0	0	0	3
	そう思う	(321)	2	11	40	25	9	9	1	1	0	0	0	2
	ややそう思う	(551)	1	3	25	31	17	19	2	2	0	0	0	2
	どちらでもない	(344)	0	1	12	27	21	26	7	2	1	0	0	3
	ややそう思わない	(383)	1	0	8	12	19	37	11	9	1	1	0	2
	そう思わない	(304)	0	0	2	7	12	34	17	19	4	0	1	2
	まったくそう思わない	(160)	0	0	1	3	3	11	13	27	19	13	6	5
	分からない	(10)	0	0	0	10	0	10	0	0	10	0	0	70
Q11 ③ 経済的な余裕	とてもそう思う	(66)	21	6	33	17	5	11	2	2	0	2	2	2
	そう思う	(380)	2	9	35	24	13	9	3	2	1	0	0	2
	ややそう思う	(522)	1	3	24	26	15	20	5	3	0	0	0	2
	どちらでもない	(442)	0	1	11	20	14	34	8	6	1	0	0	3
	ややそう思わない	(283)	0	0	8	18	21	28	11	8	1	1	0	2
	そう思わない	(242)	0	1	3	14	17	26	13	15	6	1	0	3
	まったくそう思わない	(190)	1	1	3	7	7	21	11	23	11	8	4	5
	分からない	(10)	0	0	0	20	0	0	0	10	10	0	10	50
Q11 ④ 余暇的な余裕	とてもそう思う	(48)	19	13	23	23	13	4	2	0	0	0	0	4
	そう思う	(235)	2	8	39	25	9	10	2	2	0	0	0	3
	ややそう思う	(428)	2	6	25	28	15	17	3	2	0	0	0	2
	どちらでもない	(323)	0	2	16	24	16	27	7	3	0	0	0	3
	ややそう思わない	(411)	1	0	14	20	18	27	9	5	2	0	0	2
	そう思わない	(392)	1	1	9	14	15	32	11	13	2	1	0	1
	まったくそう思わない	(290)	0	1	4	7	11	20	13	20	10	6	4	3
	分からない	(8)	0	0	0	13	0	13	0	0	13	13	0	50
Q11 ⑤ 家族との関係性	とてもそう思う	(299)	6	7	23	21	14	14	6	6	1	1	0	1
	そう思う	(658)	1	4	27	24	14	15	5	5	1	1	0	3
	ややそう思う	(596)	0	1	13	22	17	28	7	6	3	0	0	2
	どちらでもない	(350)	0	1	9	15	14	32	9	9	2	2	1	5
	ややそう思わない	(108)	1	1	9	11	8	33	15	15	4	2	0	1
	そう思わない	(72)	0	3	1	4	22	29	13	18	6	3	1	0
	まったくそう思わない	(34)	0	0	6	0	6	9	18	15	21	12	9	6
	分からない	(18)	0	0	0	17	0	28	0	11	6	0	6	33
Q11 ⑥ プライベートの充実	とてもそう思う	(167)	11	7	29	19	11	14	4	1	1	1	0	2
	そう思う	(503)	2	7	29	25	15	11	4	3	0	0	0	3
	ややそう思う	(651)	0	2	17	23	17	25	6	6	2	1	0	2
	どちらでもない	(352)	0	0	11	21	14	31	9	8	2	1	0	2
	ややそう思わない	(216)	0	0	9	13	13	32	13	13	2	1	1	2
	そう思わない	(150)	0	1	3	7	13	25	15	22	8	2	2	2
	まったくそう思わない	(88)	2	0	3	6	11	18	13	15	14	11	3	3
	分からない	(8)	0	0	0	13	0	25	0	0	0	0	13	50
Q11 ⑦ 余裕ある職員体制	とてもそう思う	(77)	12	12	29	25	6	8	4	3	0	0	0	3
	そう思う	(238)	3	8	33	25	14	11	3	2	0	0	0	2
	ややそう思う	(374)	0	4	24	28	15	20	3	4	0	0	0	2
	どちらでもない	(311)	2	2	18	23	13	26	6	5	3	0	0	2
	ややそう思わない	(348)	1	3	17	17	18	28	8	4	1	0	0	2
	そう思わない	(385)	0	1	10	22	17	24	10	10	3	1	1	2
	まったくそう思わない	(385)	1	0	5	7	13	27	14	17	6	5	3	3
	分からない	(17)	0	12	0	18	6	18	0	6	6	0	0	35
Q11 ⑧ 職場の人間関係	とてもそう思う	(162)	9	8	31	23	9	12	2	4	1	0	0	1
	そう思う	(542)	2	6	28	25	14	15	4	3	1	0	0	1
	ややそう思う	(595)	0	2	19	24	17	23	5	5	2	0	0	2
	どちらでもない	(379)	0	2	9	20	15	34	8	8	2	0	1	3
	ややそう思わない	(217)	0	0	8	11	15	31	17	12	3	1	0	2
	そう思わない	(151)	0	0	2	5	17	23	19	20	5	3	1	6
	まったくそう思わない	(81)	0	0	1	5	4	19	12	17	14	17	5	6
	分からない	(8)	0	13	0	0	13	0	0	0	13	0	0	63
Q11 ⑨ 保育のスキルアップ	とてもそう思う	(76)	13	9	22	22	8	11	3	3	3	1	0	5
	そう思う	(427)	3	7	30	24	16	14	3	2	0	0	0	2
	ややそう思う	(755)	1	3	19	22	15	24	8	5	1	1	0	1
	どちらでもない	(508)	1	1	9	18	15	28	10	10	3	1	1	4
	ややそう思わない	(196)	0	0	10	15	17	30	12	10	4	1	0	2
	そう思わない	(87)	0	0	9	9	10	18	11	22	8	5	1	6
	まったくそう思わない	(39)	0	0	0	5	8	13	5	28	10	15	13	3
	分からない	(47)	0	4	6	21	4	26	4	11	2	2	2	17
Q11 ⑩ キャリアの達成感、満足感	とてもそう思う	(72)	14	15	28	18	6	11	1	0	1	1	0	4
	そう思う	(396)	3	8	33	24	12	14	3	1	1	0	0	1
	ややそう思う	(669)	1	2	20	25	18	21	5	4	2	1	0	1
	どちらでもない	(592)	1	1	9	18	16	27	11	9	2	1	1	4
	ややそう思わない	(187)	0	0	12	13	12	33	14	12	1	1	0	2
	そう思わない	(122)	0	1	5	8	11	27	13	21	8	2	0	4
	まったくそう思わない	(62)	0	0	0	6	6	16	5	24	13	16	10	3
	分からない	(35)	3	0	9	14	9	23	9	6	3	0	3	23
Q11 ⑪ 地域社会とのつながり	とてもそう思う	(55)	15	15	22	20	5	15	0	2	4	2	0	2
	そう思う	(279)	3	7	33	25	13	14	2	2	0	0	0	1
	ややそう思う	(606)	0	4	21	25	17	21	5	3	2	1	0	1
	どちらでもない	(670)	1	1	13	18	15	28	10	8	3	0	1	3
	ややそう思わない	(240)	1	1	11	18	18	23	13	10	2	1	0	3
	そう思わない	(166)	0	1	10	13	10	27	9	21	3	2	1	2
	まったくそう思わない	(66)	0	0	3	11	9	18	9	17	14	12	5	3
	分からない	(53)	2	0	4	11	11	26	8	11	2	2	4	19

コラム③ 自分らしくいられる状態

自分自身が well-being「幸福感」を思い描いた時、真っ先に「自分らしくいられる状態」をイメージしました。その人がその人らしくいるために自身の価値観とそれを取り巻く環境を整える事は一言だけではなかなか実現できないと思います。

それは、自身がどんな人生を送りたいと思っているのか、夢や希望、将来像を思い描いてその事に向かって歩いていこうという心持ちを持っているのかではないかと考えます。

その過程で、想定していない出来事に出くわすなんて事もあるでしょう。そんな時に会った人や支えてくれる人、環境は最も自分にとって大切な存在だと思っています。

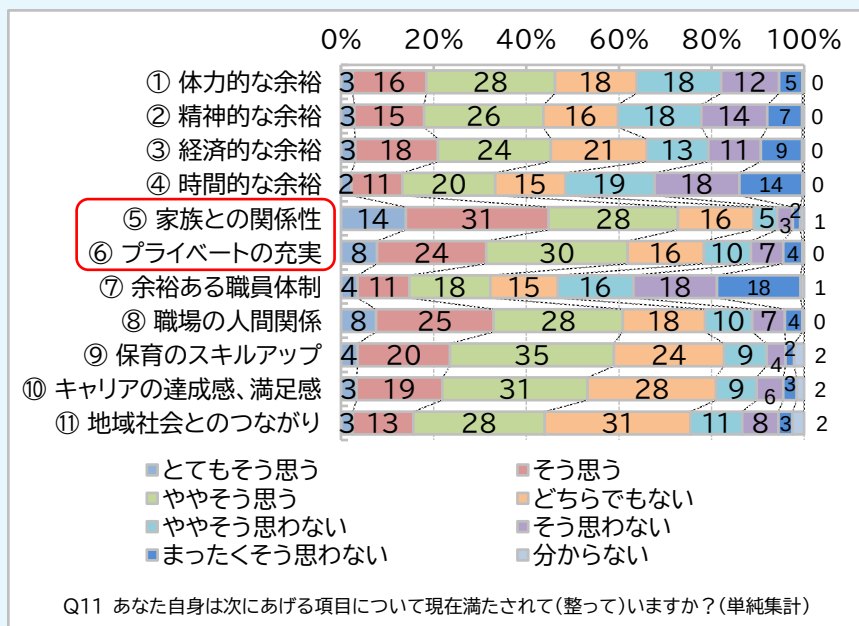
こんなエピソードがあります。来年度の求人活動をしている時期の出来事です。栄養士さんの面接をしていた時、栄養士になった理由を伺いました。その人は「幼少期に食べる事に対して苦手意識があった為、子供達が食に興味をもてる環境を作りたい」と理由をおっしゃっていました。その背景を聞いた後に、あなたにとって幸福感とはどう考えますか？と質問を投げかけました。その人は、「美味しい物を食べた時」と即座に返答されました。幸福感を感じる背景は、その時の出来事だけではなくその人が過ごしてきたプロセスがとても影響してくると感じた内容でした。

今回の調査 Q11 の解答の満たされている結果において、『家族との関係』とてもそう思う 14%、そう思う 31% 、『プライベートの充実』とてもそう思う 8%、そう思う 25%』と私生活の充実度が高い結果となっています。

この結果からみても、自分一人では支えられない歩みの過程に、心の拠り所となりうる家族の存在やプライベートの充実、仕事などで充実した時間や満足度の満足度のバランスを保つ重要な要素であると推察できます。

今回の調査の結果は、美味しいものを食べた時の幸せと思う感覚はその

人の人生における過程の一コマではあるけれど、その背景を読み取った時、その人がその人らしい人生を過ごす中で、支えとなる家族や取り巻く環境の充実が幸福感に影響があるのではないかと思います。

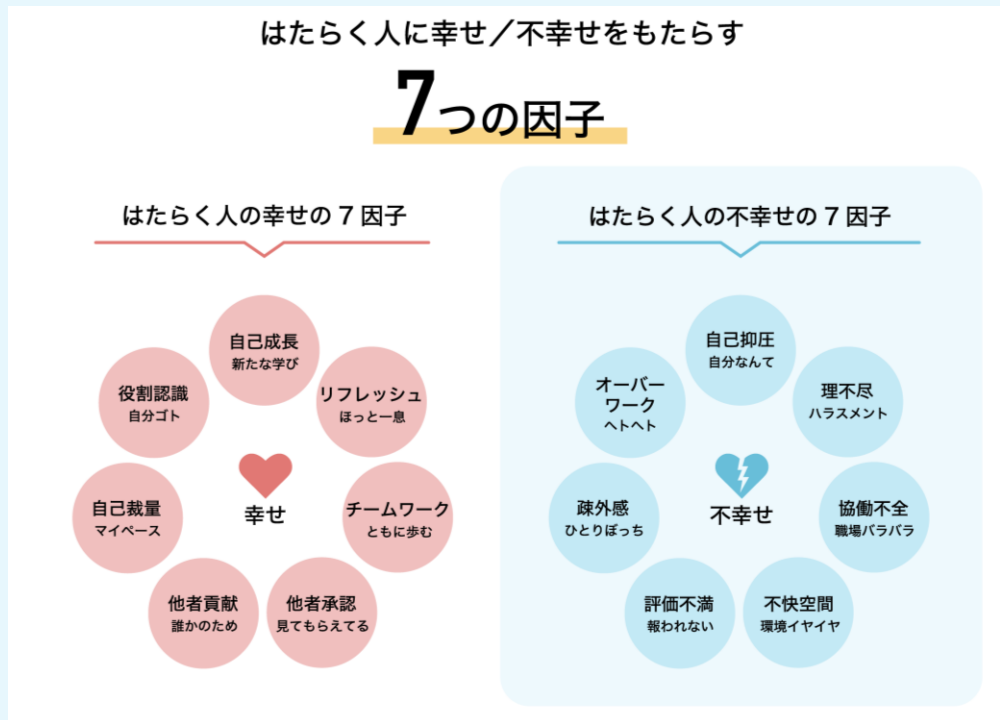


考察⑤ Q12 保育業界と医療福祉業界との幸福度比較

～管理職による職場のウェルビーイングを深める取り組みを～

Q12 は、パーソル総合研究所と慶応大学前野隆司研究室による「はたらく幸せ/不幸せをもたらす各 7 つの因子」を元に、労働者の幸福度を測定する先行調査を参考にした設問である。その研究からは、幸不幸を決める因子は、特定の条件の表裏一体ではなく、それぞれ独自の指標があり、幸せの条件を満たし、かつ不幸せの条件を満たさないことが、幸せの状態であるということが示唆されている。

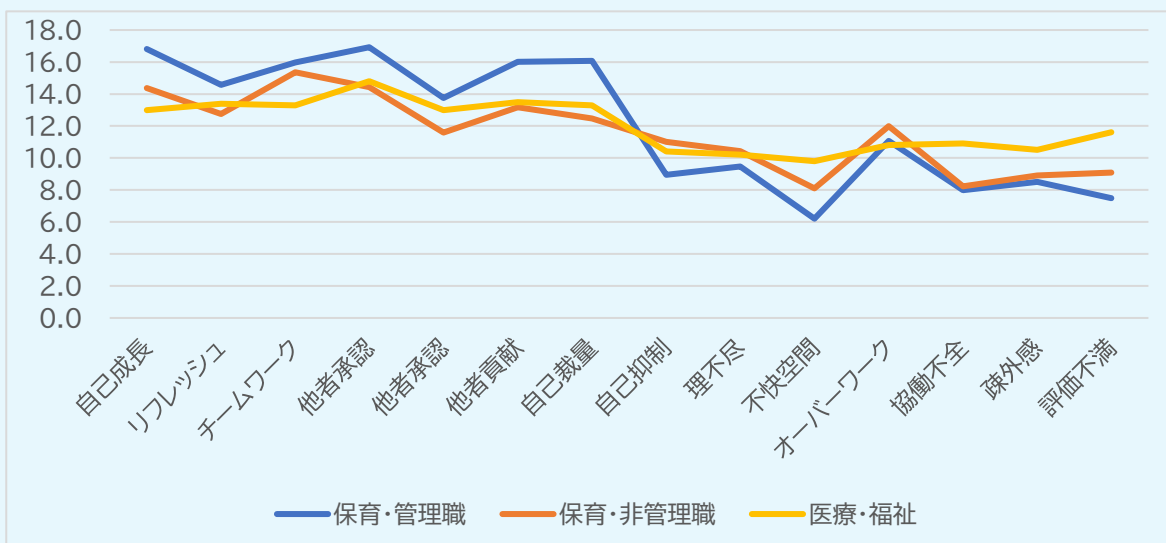
Q12 で引用した 14 の設問は、それぞれ幸／不幸を決める 7 つの因子－①自己成長、②リフレッシュ、③チームワーク、④役割認識、⑤他者承認、⑥他者貢献、⑦自己裁量、⑧自己抑圧、⑨理不尽、⑩不快空間、⑪オーバーワーク、⑫協働不全、⑬疎外感、⑭評価不満－に対応している。



先行研究により、各 7 つの因子について職種別の平均値が出ている。先行研究ではそれぞれの因子に 3 つの設問があるが、今回の調査では簡略化し 1 因子 1 問となっているため、正確な比較とは言えないという前提の上で、今回の調査の結果(保育)と、先行研究の医療・福祉の数字を比較して見ていきたい。

まず全体的に言えることは、今回の調査結果の方が先行研究の結果よりも、幸せ度が高く、不幸せ度が低い＝保育の職場の方が働く幸せ度が高いということである。幸せ因子では自己成長、チームワーク、他者貢献が高く、不幸せ因子ではオーバーワーク以外は、全ての項目で不幸せ度が低い結果が出ている。

これは一見望ましく思えるが、今回の調査結果を、理事長、園長、副園長の管理職と、それ以外の非管理職に分け、後者の保育の非管理職と医療福祉の結果を比較すると、様相は大きく変貌する。保育全体では、医療福祉より数値が低かったのが、リフレッシュ、他者承認の 2 因子のみであったが、保育の非管理職となると、その立場は逆転し、医療福祉を上回るのが、自己成長とチームワークのみとなっている。現場の保育士のウェルビーイングの低さが見えてくる。この結果が際立たせることになるのは、保育における管理職のウェルビーイングの高さであり、ウェルビーイングに対する理解度が高いと思われる管理職が率先して職場のウェルビーイングを深める取り組みを行って欲しい。



		はたらく人の幸せ因子						
		自己成長 (新たな学び)	リフレッシュ (ほっとひと息)	チームワーク (ともに歩む)	役割認識 (自分ゴト)	他者承認 (見てもらえて)	他者貢献 (誰かのため)	自己裁量 (マイペース)
業 種 別	教育、学習支援業(136)	14.5	14.6	14.1	15.9	13.7	14.6	15.0
	農業、林業(30)	13.8	14.3	14.1	14.6	13.6	13.8	14.5
	電気・ガス・熱供給・水道業(59)	13.2	14.7	13.8	15.6	13.6	13.2	14.3
	学術研究、専門・技術サービス業(87)	14.1	13.3	13.3	15.2	13.3	13.3	14.5
	生活関連サービス業、娯楽業(77)	12.7	13.5	13.4	14.9	12.9	13.2	14.2
	医療、福祉(553)	13.0	13.4	13.3	14.8	13.0	13.5	13.3
	国家公務、地方公務(194)	12.8	13.6	13.7	14.5	13.2	13.2	13.6
	宿泊業、飲食サービス業(143)	12.1	13.7	13.0	14.4	12.9	12.7	13.3
	金融業、保険業(132)	12.2	13.1	13.2	14.7	12.8	12.8	13.9
	サービス業（その他）(466)	12.3	13.3	12.6	14.2	12.3	12.2	13.1
	卸売業、小売業(422)	12.1	13.3	12.8	14.5	12.6	12.5	13.2
	建設業(318)	12.6	13.0	13.0	14.4	12.6	12.6	13.7
	情報通信業(294)	13.0	13.3	13.4	14.9	13.0	12.7	14.3
	運輸業、郵便業(117)	11.7	12.7	12.5	13.8	12.0	12.3	12.8
	製造業(1127)	12.0	13.2	12.8	14.3	12.5	12.2	13.4
	不動産業、物品賃貸業(72)	11.1	12.5	11.8	14.3	12.0	12.0	13.9
	その他(407)	13.0	13.3	12.9	14.6	12.6	12.6	13.8

		はたらく人の不幸せ因子						
		自己抑圧 (自分なんて)	理不尽 (ハラスメント)	不快空間 (環境イヤイヤ)	オーバーワーク (ハトハト)	協働不全 (職場バラバラ)	疎外感 (ひとりぼっち)	評価不満 (報われない)
業 種 別	教育、学習支援業(136)	8.6	8.1	7.4	9.2	8.3	8.7	9.5
	農業、林業(30)	10.5	10.9	11.0	11.5	10.9	11.1	11.8
	電気・ガス・熱供給・水道業(59)	10.2	10.1	9.3	10.2	10.3	9.6	10.8
	学術研究、専門・技術サービス業(87)	9.6	9.5	8.6	10.8	10.3	10.5	10.8
	生活関連サービス業、娯楽業(77)	10.7	10.3	9.3	10.1	10.1	10.3	11.3
	医療、福祉(553)	10.4	10.2	9.8	10.8	10.9	10.5	11.6
	国家公務、地方公務(194)	10.8	10.9	10.4	10.6	10.7	10.3	11.5
	宿泊業、飲食サービス業(143)	10.4	10.0	9.6	10.5	10.1	10.2	11.4
	金融業、保険業(132)	10.5	10.6	9.3	11.2	10.9	10.2	12.2
	サービス業（その他）(466)	10.4	10.0	9.7	10.6	10.5	10.6	11.5
	卸売業、小売業(422)	10.7	10.1	9.8	10.9	10.7	10.6	11.7
	建設業(318)	10.5	11.0	9.9	11.2	11.0	10.7	11.5
	情報通信業(294)	10.9	9.6	9.3	10.9	10.3	10.7	11.4
	運輸業、郵便業(117)	10.9	11.2	10.8	11.5	11.6	11.2	12.4
	製造業(1127)	10.8	10.5	10.3	10.9	11.0	10.7	11.9
	不動産業、物品賃貸業(72)	10.2	10.3	9.5	10.6	10.8	10.7	11.5
	その他(407)	10.1	9.6	9.4	10.3	10.1	10.4	11.2

(図表等：慶應義塾大学前野研究室パーソル総合研究所「はたらく人の幸福学プロジェクト」より)

コラム④ ウェルビーイングにおける既往の研究

ウェルビーイングに取り組むあたり、どのような事柄に着目して進めていくべきかを考えた際、これまでの研究を手がかりにするのが効果的と思われるので代表的な事例をここで紹介します。自分の感性にあったもの、自分が納得できるものを見つけ、各項目をバランス良く取り組んで行くことが大切です。

①アメリカで世論調査などを手掛けるギャラップ社は、次の5つの領域で、「主観的ウェルビーイング」を各国で計測しています。

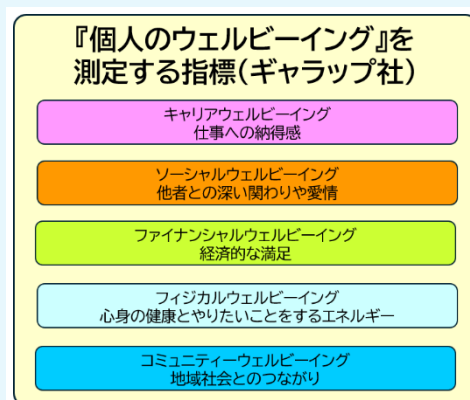
【キャリア ウェルビーイング】 仕事に納得感を持っていて、日々の仕事を楽しんでいるか

【ソーシャル ウェルビーイング】 生活の中で、他者との関わりや愛情を持つことができているか

【ファイナンシャル ウェルビーイング】 支出や収入をうまく管理することにより、経済的に満足ができているか

【フィジカル ウェルビーイング】 心と体が健康で、自分がしたいと思ったことをする十分なエネルギーがあるか

【コミュニティウェルビーイング】 地域とつながっていると感じられているか



②アメリカの心理学者マーティン・セリグマン博士らは、ウェルビーイングでいられるためのモデル「PERMA(パーマ)」を提唱しています。PERMAとは、Positive Emotion(ポジティブな感情)、Engagement(何かへの没頭)、Relationships(他者との関係性)、Meaning(生きる意味)、Accomplishment(達成)の5つを満たしている人が幸せというものです。



図 セリグマンの PERMA モデル



図 前野隆司(著)『ウェルビーイング』より

③幸福学研究の第一人者、慶應義塾大学前野隆司教授によると、幸せには4つの因子「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」があり、この4つの因子を少しでも高めていくことが幸せにつながるといいます。

考察⑥ Q13 自由記述のウェルビーイング度別の分類とワードクラウド ～現場からの率直な報告～

Q13 の自由記述の考察においては意見の紹介とあわせて Q9 設問におけるウェルビーイングの自己評価にもとづく内容の傾向の視覚化を試みた。全文紹介できないためお伝えしにくいですが、大きな意味でのトピックのばらつきはそれほど大きくないように思われる。

ただ、回答者のおかれて
いるコンディション・人間関係
といったまさに身体的・精神

的・社会(環境)的な状況が心理的に大きく影響していると感じられた。ウェルビーイングの自己評価が高かったものから順に列挙していきたい。(引用した自由記述はすべて原文のまま記載)



Q13 全体（分析対象n数：890） 出現個数にもとづくワードクラウド

(Q9 自己評価10 n=15)から

○自分の時間を1日の中でせめて30分はとる。職員たちとコミュニケーションを図る。(職務のことだけではなくプライベートの話をする)「手は抜かず、力を抜く」ようなパフォーマンスを心掛ける。できるだけ、徒歩で自然を感じ、足元に咲いている草花に目をやり、愛でていきたい。家庭では、家族で食卓を囲み、コミュニケーションを取り合う。社会情勢に敏感になり、子ども達の未来のために何ができるかを考え、発信できる努力をすることで、世界中のウェルビーイングを達成することができるようしていきたい。

○それぞれの良さを見つけ、お互いに肯定的な見方をしながら温かい雰囲気与生活を送ること。

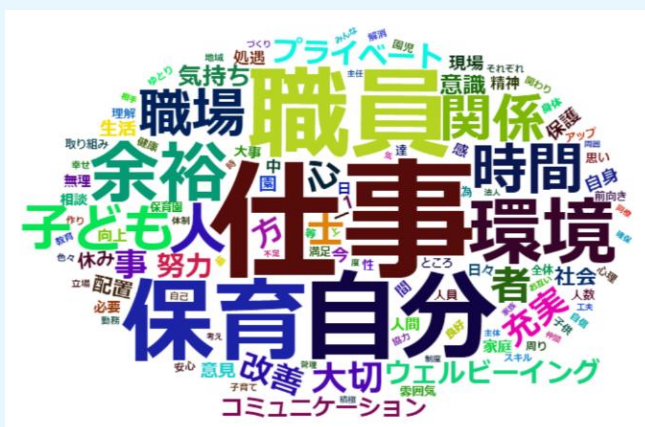
○子どもも職員も保護者もその人らしく幸せでいられることが大切と考え、理念として日頃より意識して伝えている。子どもや保護者の心に寄り添った対応を心がけ、職員は有休取得率 100%、残業無、プライベートの時間を大切にするようにしています。また、心理的安全性の中での勤務が出来る協力体制に感謝し、認め合う習慣を作っています。



○プライベート時間を大切にし、リフレッシュをする。同僚としっかり意見交換する。ワクワクするような保育について考えていく。



○満足度の指標をどこに置くかで回答内容は変化すると思う。自己肯定感を上げ、周囲とのコミュニ



ケーションをとり相話し合える関係性を築いていくことが必要だと思う。多様性の時代と言われている。育ってきた環境や教育が年齢により違っているため、一方的なアプローチでは分かり合えないことがあるだろう。相互に分かり合える関係を築いていくには、両者の努力が必要だ。すべてを理想に近づけるのは大変である。「今より少しだけ満足」を目標にしていきたいと思う。

○日頃から職員一人ひとりとの挨拶や短い時間でも話す事によりいつもと違う、元気がない、などの変化を感じ取ることを心掛け、相談しやすい雰囲気作りに努める。仕事に関する事は他の職員も交えて話し合い解決できないまでも精神的な負担を少しでも解消できるようにしたいと思う。

○子どもや保育者のウェルビーイングを保障するために、職場でも家庭の地域でも繋がり合えりような信頼関係を築く努力をしたいと思う。例えば、園が生き残るために他園と競争するのではなく、一緒に協力し合い地域全体で保育の質の向上を目指したい。競争から共創をテーマに、アンテナを張りながら学び続けたい。

○今以上に仕事とプライベートをしっかりわけて、ストレスのたまらないような工夫をしていきたい。

○仕事とは離れた時間を作る。休憩時間の使い方、保育士も仕事しないでゆっくり休める時間を作れるような環境にしたい。

○精神的また経済的にも、向上していけばと思います。その為には、保育士という仕事が社会的にもっと認められる、大切に思ってもらえるようになればと願っています。

○まずは健康維持

○仕事自体にはやりがいを感じているし、人間関係も良好、処遇改善もあり環境改善に向けて取り組んで頂いていることに感謝しています。ですが、保育士不足は切実です。余裕を持った配置でゆとりを持つ保育ができたと思います。

○できるだけ、余力を残せるようにする。(時間的にも、精神的にも、体力的にも)無理をしない、楽しい事や、美しいものにふれる。1人の時間も大事にする。前向きになれるように過ごす。

○週休2日が難しく職務に見合わない給与等保育士現場全体の環境改善を行ってほしい。子育てする家庭への支援は手厚いが預かる側の支援はまだまだだと感じる。

家庭に持ち帰る仕事はなくし休みはしっかり自分の時間として使えるようにしている。今後もそうしていきたい。

○職員配置にゆとりがない状況の解消。心にゆとりが無くなるとプライベートにまで影響を及ぼす。

○この仕事ではなかなか難しいことで、転職も考えます。それでも、この仕事でウェルビーイングになるためには、もっと保育士の待遇改善をしてほしい。仕事出来るのは、保育園があって、保育士がいるから！ということがもっと理解してほしい。

○体力的にも精神的にも健康でいられるように、休めるときには休んで余裕をもって生活をしていきたい。

○自園では、これをしなければ！させなければ！が優先されており、注意、怒る声が多く、子供達の心を育てる保育、環境に欠けているように思う。このアンケートを機に考え方を考える保育者が増え、子供に寄り添った保育になることを期待しつつ、子供が保育園でも安心して過ごせるような温かい保育を心がけていきたい。

○このまま自分を1番大切にすること、家族、子どもを優先すること、自分も周りの人たちが嫌な気持ちにならない言動を意識してとること、挨拶や返事は笑顔で返すこと、たくさん勉強すること、人

のいいところは真似すること、気持ちが沈んで何もしたく無い時は何もしないこと、それを許してくれる家族がいること、愚痴も言うこと、

○回りの色々なことに感謝を忘れず 子ども達と一緒に楽しみながら仕事が出来たらと思います

○すべて個人の心の持ちようだと思います。幸せは自分の心が決めるのだと思います。

○人手不足解消のために、なぜ退職者が多いのか政治家や上の人達に現場に来てほしい。体力と忍耐、一日中忙しくトイレに行きにくい程。家庭と仕事の両立が難しいのが現状で正社員として働けない。有資格者なのだから給料を上げてほしい。自分の子どもが大きくなるまでは臨時やパートで働いてウェルビーイングを向上させたい。

○ピアノや習字を習ったり、心理学などにも興味が出てきたので学び直しをして、スキルアップ向上につなげていきたいです。

○仕事内容にしたら給料が安いと感じる。もう少し優遇されると経済的にも余裕が出来、仕事にも励めると感じる。

○職員不足なのに、園児数は増え続け、正直一人一人を大切にしたい保育が行えません。自分のしたい保育よりも、1日お子さんを預かり、いかに事故、怪我なく過ごすかということだけになってしまいます。保育中も、待ってね。あとでね。ばかりで中々実現できず、子どもにとっても良い環境とは思えません。心苦しくなる日や反省する日ばかりです。今の職場でなければ、この思いは救われるのかと考える事や、いっそ保育士を辞めてしまおうかと思う事もあります。求められる事ばかりで、本当に大切な事を見失ってしまいます。仕事量が減らない限り、ウェルビーイングには程遠いと思います。

○子どもも大人も楽しく働いたり過ごしたりできるように、自分の立場でできる事から始めていく。

(Q9 自己評価5 n=179)から

○ストレスをためないようにしていく工夫として、職場でのコミュニケーション。個人では、自分も他人も大事におもえるような思考を持つようにする。

○保護者や職員、法人関係者、行政の全てが互いをわかり合い、支え合うことが大切。子育て中の保護者には、お金の支給ではなく、労働時間の軽減措置をするなど、生活時間に余裕と潤いを持てるような社会になること。

○社会的という面が弱いと感じます。情報収集など、積極的に外に向けて発信や交流を持てるようにしていきたい。

○ワークライフバランスを整えて、メリハリのある生活を送ってきたい。

○休んでいる間も在園児に何か起きるかもしれないと思うと気が抜けなため、今の仕事をしている間はウェルビーイングになれない気がしています。

○賃金アップ仕事量が多すぎて持ち帰りの仕事が多い保護者からの要求が多すぎる

○もう少し、余暇の時間を設けたいと思う。つまり、働き過ぎと感じている。



○家庭との両立で子どもや自分の体調不良時に気をつかわず休みやすい環境や、同じ非常勤勤務でも仕事量に差があったりするのでだいたいの仕事量は決めて頂けたらありがたい、長くいれば(勤続年数)仕事量は増えるが時給はあがらない為。経済的にも正社員で働きたいが持ち帰りが多いので今は非常勤勤務である。

○国の子育て支援の考え方が抜本的に変わらなければ、私にとってのウェルビーイングの実現は難しいと思う。

○公的処遇改善(配置基準の大幅改善、人件費の大幅拡充など)がないと、精神的にも肉体的にも経済的にも時間的にもウェルビーイングは困難です。

保育の仕事は充実し、やりがいもありますが、困難を抱えた家庭や子どもを支援していくには、他機関との連携が不可欠なケースが多くあります。しかし実情は市も保健センターも児童相談所も人手不足で、ケースワーク会議などが持てない状況にあります。これらの根本的な解決なしに、「こども誰でも通園制度」などの、おもに保護者の利便性のみを重視した制度は、子どものウェルビーイングに反することになります。

○仕事で子どもや保護者に向き合うために、休みの日にはしっかり休んだりリフレッシュしたりするようにしたい。

○上司が変わらなければ職場は変わらない

○時間と気持ちの余裕がない。精神と体力を消耗し自分の家庭を犠牲にしながら仕事を続けている意味を見失うことがある。家庭に問題がある子、発達に問題がある子がクラスの中に複数人いて、保護者の協力、理解もなく、ただ保育士の頑張りが誰にも伝わらないまま時が進んでいるように感じる。何のために保育をしているのか、加配は保護者の理解がなくても現場での判断で付けれるようにしないと回らない。怪我と紙一重の張り詰めた仕事を安月給でしている。保育料無料とかでは意味がない。親が子どもに向き合う時間が増えてほしい。子どもは親を求めています。親も子どもとゆっくり関わってあげたいはず、仕事とお金優先の世の中を変えたい。

○自分ではどうしようもないことってありますよね。例えば職員の不足で身体的にしんどいなど。もう少し働く人のことを考えてもらえたら...

○国の保育士配置基準がかわらないと保育に余裕をもって働くのは難しい。仕事だからやっているが今のままだと保育指針の保育は難しい。今の子どもたちの特性も変わってきているので配慮してほしいです。

○職場に不満はないですが保育体制自体が変わらないことには精神的余裕はうまれません！経済的なことを考えると働かないといけない、精神的なことを考えると時間に余裕がないです！身体的なものは自分で体力作りする必要があると思っています！

○仕事に追われると精神的に辛い時があり、それを溜め込んでしまうタイプな為周囲へ助けを求められるようになりたい。少しずつ、自分の気持ちを出すことが出来ているが足りない部分があると自分で自覚している。自らの負担を減らせる努力をするべきであると感じる

○保育士の賃金、待遇が低すぎて職員が集まらず、高齢化が止まらない。余程の情熱があるか、次が見つかりにくい年代が残るのみ。若い人は、もっと福利厚生がしっかりし、責任が低い職種を選ぶ。

私自身も、夢を持って就職したが、家庭もあるので、効率良く稼ぐ必要があり、離職、転職予定。

○適度に休みが取ることができ、和気あいあいと気持ち的にゆとりが持てる環境にする。

○個人や施設の努力では限界がある。国や自治体が全産業の労働状況の抜本的な改善を行ったり、職員配置基準の大幅な改善などを行うことが、保育施設にも余裕が生まれ、最も職員や子どものウェルビーイングにつながると思う。

○仕事における満足感も、プライベートにおける価値観も世代によって全く違うことが日々、明らかに見えている。歩み寄ることや、互いを理解することで距離も埋まるのかとは思いますが、そこまでできる時間的な余裕や精神的な余裕もない。(職員不足)まず、世代間の価値観の違いを理解していくための取り組みを考えなければならないと思う。



○子供も大事だが自分たちの生活や精神状態が満たされてこそ、子供たちへの対応がしっかり出来ると思うので、身の回りを整えていきたい。

○毎日の休憩時間が全くなく、それが当たり前になっている環境を変えていきたい。園長主任に働きかけていきたい。

○職員体制がカツカツで全体的に余裕がないので、毎日仕事に追われて生きている感じがする。休みの取りづらさもあり、体力と精神的に余裕がないので、人員を増やしたり子どもの人数を制限するなど、何かしらの余裕ができてほしい。自分のプライベートな時間を削って残業や持ち帰り仕事をすれば、多少は余裕ができるが、休憩も取れていないので限界はある。

○ピラミッド型の組織図が緩和されればいい。40代、30代の意見を聞く！

○全てにおいて保育に負担が多いのであまり改善する感じはしない。保護者サイドの意見ばかりが

取り入れられて、保育で働く人々の負担が多いと思う。あまり保育で働く人々の事は考えてもらえないように思います。

○心に余裕ができるようにしっかり眠る

○古くからある保育園の為、新しい事を取り入れない子供より保育者主体な場が多い。行事見直し改善が必要

○働き方を考えたい。今は正職員で働いているが、睡眠時間と家族との時間を削って持ち帰りの仕事をしている。体力的にも精神的にも限界を感じる。我が子を放っておいて園の子どもたちの幸せを追求する矛盾も苦しい。パートになるか、保育士でない仕事に就くかしたい。

○職場環境の改善を求め、意見してきたが改善どころか悪化するばかりで職員の疲弊が激しい。何を言っても無駄としか思えなくなっている

○現在、保育士の質がどんどん下がってきていることが心配。保育士の賃金や労働のあり方等…大幅に改善しないと保育士のレベルが下がり、この先ますます質が下がることに繋がると思う。不適切保育は大小問わないならどこにでもあり得るのが現実で、人を育てる尊い仕事なのにこの現状は本当に悲しい。

○仕事量の偏りを無くし、お互い助け合って成長し合える職場環境を作っていきたい。

(Q9 自己評価2・1 n=37)から

○特定の保護者からの異常な申し立てが苦しく、職員も周りの保護者も疲弊している。どのように対処すればいいのか悩んでいる

○ウェルビーイングという言葉をはじめて聞きました。自分の職場と置き換えると、決している環境ではないと思っています。ただ不満も言えない自分もありますので、不満ばかりがたまりません。私になりにくくな



った保育士ですが、仕事内容と給料が全く釣り合わず残念だと思います。そして言われ続けているのに給料面が上がらない社会が残念でなりません。

○どうしても自分自身や自分の保育に自信がなく、自己肯定感も低い。プライベートにも影響してしまう。もっと自分に自信を持ち、心身ともに満たされるようにしたい。

○満たされるには難しい職業のようにも感じる。お昼の時間にする書類やお帳面などもあるが、子どもたちが起きたり、うんちをしたら変えなければいけない、掃除をしなくてはならない、やることがたくさんあり、書類関係が後回しになってしまう。休憩時間でさえ、まともに休憩とれないこともある。書類はできなければ家でして当たり前の風潮がある。

(Q9 自己評価0 n=6)から

○職場の環境が悪すぎてどうにもならない。

○今は考えられない

コラム⑤ 自由記述の最後に

Q13 の自由記述ではウェルビーイングに近づくための皆様のお考えをお聞きしました。それぞれの置かれた状況や園の方針、保育観や役職の違い・・・と背景は様々ですが、各園で皆様がより良い保育をしたいと行動しているにもかかわらず、好循環な活動事例の一方で、障壁要因に突き当たって疲弊・葛藤している姿もありました。繰り返しになりますが各園の環境はそれぞれで、立場が違っていると見方も違います。人間いろいろで相性もありますが、良くも悪くもそれが多様性や可能性だとも感じます。事例紹介を通してよいところはさらに伸ばし、気になるところは参考にしたりお互い歩み寄ってより望ましい環境を創造する気づきへのきっかけとしていただけると幸いです。

また非常に少数ではありましたが、理事長・園長や組織の運営者といった園内において大きな権限を有する方が保育現場を理解しないままその権限を行使していると指摘される事例もありました。保育室において、先生の言動が子どもたちの育ちに大きく影響するように、園内において大きな影響力を持つ役職の方々は今一度ご自身の言動を振り返ったり運営方針や保育方針をより丁寧に職員と語り合っていただき、子どもまんなかを意識した価値観の確認をしていただきたいと切に願います。

貴重なご意見をお寄せいただき、本当にありがとうございました。

<<参考文献・参考サイト>>

(著)前野 隆司 ウェルビーイング
(著)前野 隆司 「幸福学」が明らかにした幸せな人生を送る子どもの育て方
(著)前野 隆司 幸福学の先生に、聞きづらいことぜんぶ聞く
(著)前野 隆司 実践！ウェルビーイング診断
(著)前野 隆司 99%の小学生は気づいていない！？ウェルビーイングの魔法
(著)及川 美紀、前野 マドカ 幸せなチームが結果を出す ウェルビーイング・マネジメント7か条
(著)酒井博基、前田洋子ほか ウェルビーイング的思考100
(著)溝上慎一 幸福と訳すな！ウェルビーイング論—自身のライフ構築を目指して—
(著)島井 哲志 科学的に幸福度を高める50の習慣
(著)FQ JAPAN編集部 FQ Kids <2023年春号> “ウェルビーイング”と非認知能力
(著)佐久間庸和 ウェルビーイング?Well-being?: 個人・企業・社会が求める「幸せ」とは
(著)渡邊淳司、ドミニク・チェン ウェルビーイングのつくりかた 「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド
(著)渡邊淳司ほか わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために その思想、実践、技術
(著)ラファエル A. カルヴォ & ドリアン・ピーターズほか ウェルビーイングの設計論-人がよりよく生きるための情報技術
(著)加藤守和 ウェルビーイング・マネジメント
(著)石川 善樹 むかしむかし あるところにウェルビーイングがありました 日本文化から読み解く幸せのカタチ
(著)谷島直樹 ニュージーランドの保育園で働いてみた子ども主体・多文化共生・保育者のウェルビーイング体験記
(著)乾敏郎、門脇加江子 脳科学はウェルビーイングをどう語るか？ 最新科学が明かすふれあいとコミュニケーションの力
(著)青木慶 スキルシェアのすすめ なぜ知の共有がウェルビーイングを向上させるのか
(著)セーフティグローバル推進機構 実践!ウェルビーイング
(著)鶴見哲也、藤井秀道、馬奈木俊介、幸福の測定 ウェルビーイングを理解する
(著)第一生命経済研究所 ウェルビーイングを実現するライフデザイン
(著)OECD OECD幸福度白書5
東京財団政策研究所HP
岩手県HP
富山県HP
熊本県HP
群馬県HP
ベネッセ ウェルビーイングLab HP

こどもと保育者における生活満足度

(ウェルビーイング)に関する調査

〔調査項目〕

※令和6年2月1日時点の状況をご回答ください。

Q1. ご回答頂いている方の施設がある都道府県をお答えください。

Q2. ご回答頂いている方の施設がある市区町村の人口をお答えください。
○1万人未満 ○1～3万人 ○3～5万人 ○5～10万人 ○10～20万人
○20～50万人 ○50～100万人 ○100万人以上

Q3. ご回答頂いている方の施設の法人格をお答えください。
○社会福祉法人 ○学校法人 ○宗教法人 ○NPO法人 ○株式会社
○有限会社 ○個人○一般財団法人 ○公益財団法人 ○一般社団法人
○公益社団法人 ○医療法人 ○その他

Q4. ご回答頂いている方の施設の施設種別をお答えください。
○保育所 ○幼保連携型認定こども園 ○保育所型認定こども園
○地域裁量型認定こども園 ○幼稚園型認定こども園 ○小規模保育 A
○小規模保育 B ○その他

Q5. 貴施設の在園児の規模についてお答えください。

○30人未満
○30～60人未満
○60～90人未満
○90～120人未満
○120～150人未満
○150～180人未満
○180人以上

Q6. ご回答頂いている方の役職をお答え下さい。(複数回答可)
○理事長 ○理事 ○園長 ○副園長 ○主任保育士・主幹保育教諭

○副主任保育士・副主幹保育教諭 ○保育士・保育教諭(クラスリーダー)
○保育士・保育教諭(クラスリーダー以外) ○保育士・保育教諭(フリー)
○保育補助(資格なし) ○保健師 ○看護師 ○栄養士 ○調理員 ○事務員
○その他

Q7. あなたの1週間の実労働時間を教えてください。

○20時間未満
○20時間以上30時間未満
○30時間以上40時間未満
○40時間以上45時間未満
○45時間以上50時間未満
○50時間以上

Q8. 『well-being(ウェルビーイング)』とは、「身体的」「心理的」「社会的」にすべて満たされた状態であり、物質的豊かさではなく、「今の心地良さを重視して生きる」と言われていますが、知っていましたか？

○言葉も意味も知っていた
○言葉は聞いたことはあるが、意味は知らなかった
○言葉も意味も知らなかった

Q9. ウェルビーイングな状態を10段階(10が最高の状態)で表すとすると、あなたの今のウェルビーイングはどれ位ですか？

○10
○9
○8
○7
○6
○5
○4
○3
○2
○1
○0
○わからない

Q10. あなたが普段保育(仕事)を行う上で接している総合的なこどもの姿として次にあげる項目が満たされている(整っている)と思いますか？最も近い項目をお選び下さい。

<マトリクス横項目>

[1]とてもそう思う [2]そう思う [3]ややそう思う [4]どちらでもない
[5]ややそう思わない [6]そう思わない [7]まったくそう思わない
[8]わからない

<マトリクス縦項目>

①欲求が満たされる環境
②安心出来る環境
③経済的・物質的豊かさ
④家族との関わり
⑤こども同士の関わり
⑥保育者との関わり
⑦地域社会との関わり
⑧社会性を育む環境
⑨遊べる環境
⑩学べる環境
⑪成長する達成感・満足感

Q11. あなた自身は次にあげる項目について現在満たされて(整って)いますか？最も近い項目をお選び下さい。

<マトリクス横項目>

[1]とてもそう思う [2]そう思う [3]ややそう思う [4]どちらでもない
[5]ややそう思わない [6]そう思わない [7]まったくそう思わない
[8]わからない

<マトリクス縦項目>

①身体的な余裕
②精神的な余裕
③経済的な余裕
④時間的な余裕
⑤家族との関係性

⑥プライベートの充実
⑦余裕ある職員体制
⑧職場の人間関係
⑨保育のスキルアップ
⑩キャリアの達成感・満足感
⑪地域社会とのつながり

Q12. 次にあげる項目について、働く上でのあなたの気持ちに最も近いものをお選び下さい。

(出典「パーソナル総合研究所・慶應義塾大学前野隆司研究室」)

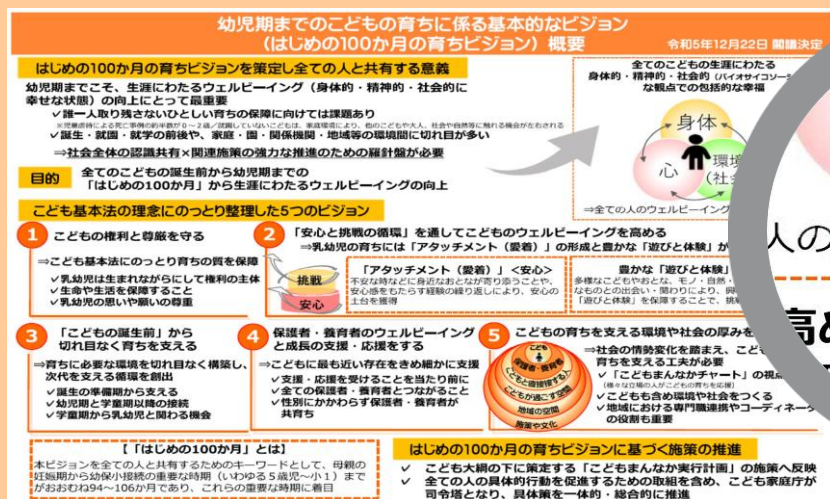
<マトリクス横項目>

[1]とてもそう思う [2]そう思う [3]どちらかというと思う
[4]どちらでもない [5]どちらかというと思わない [6]そう思わない
[7]まったくそう思わない [8]わからない

<マトリクス縦項目>

①私は、仕事で好奇心がくすぐられることがある
②私は、仕事の精神的な消耗から回復することができている
③私には、相互に励まし、助け合える仕事仲間がいる
④私は、主体的に仕事に取り組めている
⑤私は、仕事で同僚から高い評価やよい評判を得ている
⑥私は、仕事を通じて、社会へ貢献している実感がある
⑦私は、仕事を自分の裁量で進められている
⑧私は、仕事で成果を出す自信がない
⑨私は、上位者から理不尽な要求をされることがある
⑩私の職場は、無機質で冷たい感じがする
⑪私は、仕事で精神的な余裕が作れていないと感じる
⑫私は、職場のメンバーに足を引っ張られているように感じる
⑬私は、同僚と意思疎通できていないと感じる
⑭私の仕事での努力は、報われないと思う

Q13. ウェルビーイングになるための取り組みを今後どのように行っていきたいですか。(自由記述)



人のウェルビーイング向上

高める

「遊びと体験」が

こどもと保育者における生活満足度（ウェルビーイング）に関する調査

2023年12月『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン』（以下、育ちのビジョン）が閣議決定されました。この育ちのビジョンは、幼児期までの「こどもの育ち」において全ての人と共有したい理念や基本的な考え方を整理したものであり、社会全体の認識共有を図り、政府全体の取組を強力に推進するための羅針盤として位置づけられています。その冒頭、**人の生涯において望ましい状態という概念で『well-being(ウェルビーイング)』**（内閣府では同意の言葉として生活満足度と表記）という言葉が登場します。ウェルビーイングとは、「幸福」と翻訳され、「身体的」「心理的」「社会的」にすべて満たされた状態であるとされ、感覚的にイメージするのは容易ですが、その本質はどのようなものであるかを理解するために保育に関わる私達がさらに語り合うことが大切だと思います。

全私保連調査部では、今回の育ちのビジョンを読み解く第一歩として、こどもと保育者のウェルビーイングに関する現状把握と事例の収集を目的として本調査を行います。得られた結果とその考察により、保育現場全体のウェルビーイング向上に寄与するよう努めてまいります。

本調査はインターネット調査で実施し、よりスピーディーな意見回収と結果報告を行えるよう進めてまいります。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

皆さんからの
現場の声を
お聞かせ下さい

調査の入口は
このQRコードから



スマホでも
回答可能

<調査の概要>

調査内容：下記「調査票」に基づくインターネット調査

<https://questant.jp/q/well-being1>

調査対象：保育施設で働くすべての方

調査期間：令和6年2月1日～2月29日

<この調査に関することへのお問い合わせ先> (公社)全国私立保育連盟 調査部担当 03-3865-3880

＊本報告書に関するご意見、ご感想、お問合せ等は、
下記の全私保連調査部へお寄せくださいませ。

こどもと保育者における生活満足度(ウェルビーイング)に関する調査

令和6年5月21日編

編者 公益社団法人全国私立保育連盟 調査部

調査部長	川島 俊樹（岐阜県・川島東こども園）
調査副部長	久居麻紀子（千葉県・音のゆりかご保育園）
調査部員	小川 幸伸（和歌山市・のざき保育園）
調査部員	田中 育美（徳島県・育英認定こども園）
調査部員	桑原 静香（長崎県・認定こども園島地シティ夜間保育園）
調査部員	津村 侑弥（秋田県・明照保育園）
調査部担当常務	齊藤 勝（山形県・子供の城保育園）

問合せ先 公益社団法人全国私立保育連盟

〒111-0051

東京都台東区蔵前 4-11-10 全国保育会館

TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879

URL:<https://www.zenshihoren.or.jp/>